

静岡県の高齢者の生活と意識

～令和元年度高齢者の生活と意識に関する調査結果から～

令和2年9月

静岡県健康福祉部
福祉長寿局長寿政策課

目 次

第1章 調査の概要	
1 調査の目的	2
2 調査の内容	2
3 調査の実施	2
第2章 調査結果の概要	
1 回答者の属性	4
2 高齢者一般調査、総合事業対象者調査及び在宅要支援認定者調査の結果	
(1) 家族や生活状況について	7
(2) からだを動かすことについて	8
(3) 食べることについて	12
(4) 毎日の生活について	15
(5) 地域での活動について	18
(6) たすけあいについて	28
(7) 健康について	30
(8) 認知症について	34
(9) 健康への取組・関心等について	35
3 在宅要介護認定者調査の結果	
(1) 介護サービスの利用状況等	41
(2) 主な介護者の状況等	44
第3章 調査票及び集計表	
1 調査票	
(1) 高齢者一般調査・在宅要支援認定者調査	48
(2) 総合事業対象者調査	59
(3) 在宅要介護認定者調査	70
2 集計表	
(1) 高齢者一般調査・在宅要支援認定者調査	76
(2) 総合事業対象者調査	96
(3) 在宅要介護認定者調査	116

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的等

静岡県長寿社会保健福祉計画の策定に当たり、施策の方向性や目標等を定める基礎資料とするため、本県の高齢者の生活実態や普段の意識を把握することを目的に、3年に1度、調査を実施している。

今回は、令和3年度～令和5年度までを期間とする第9次計画に反映させるため、調査を実施した。

2 調査の内容

(1) 調査の種類・対象者

調査の種類	対象者
高齢者一般調査	要支援・要介護認定を受けていない、及び介護予防・日常生活支援総合事業の対象 ^(※) となっていない65歳以上の方
総合事業対象者調査	介護予防・日常生活支援総合事業の対象となっている方
在宅要支援認定者調査	要支援認定を受けている在宅の方
在宅要介護認定者調査	要介護認定を受けている在宅の方

※介護予防・日常生活支援総合事業の対象とは、市町が行う「基本チェックリスト」を受けて生活機能の低下がみられた場合に対象となる。

(2) 調査項目

調査の種類	主な調査項目
高齢者一般調査 在宅要支援認定者調査	(1) 家族や生活状況について (2) 体を動かすこと、食べることについて (3) 毎日の生活について (4) 要支援の状況について
総合事業対象者調査	上記(1)～(3)
在宅要介護認定者調査	・介護サービスの利用状況 ・家族の介護状況

3 調査の実施

(1) 調査の実施主体

県内各市町（全ての市町で実施）

(2) 調査方法

郵送又は訪問による調査

(3) 調査実施の時期

令和元年9月から令和2年3月まで

(4) 調査の集計

各市町においてまとめられた集計表に基づき県が集計

(5) 有効回答数

調査	有効回答者数
高齢者一般調査	37,610人
総合事業対象者調査	2,836人
在宅要支援認定者調査	7,613人
在宅要介護認定者調査	15,187人

※本調査では「高齢者一般調査」を「一般調査」、「総合事業対象者調査」を「総合事業調査」、「在宅要支援認定者調査」を「要支援者調査」、「在宅要介護認定者調査」を「要介護者調査」と記す。

※調査結果の100%積み上げグラフにおいて、端数の処理により合計が100%にならない場合がある。

第2章 調査結果の概要

1 回答者の属性

(1) 高齢者一般調査

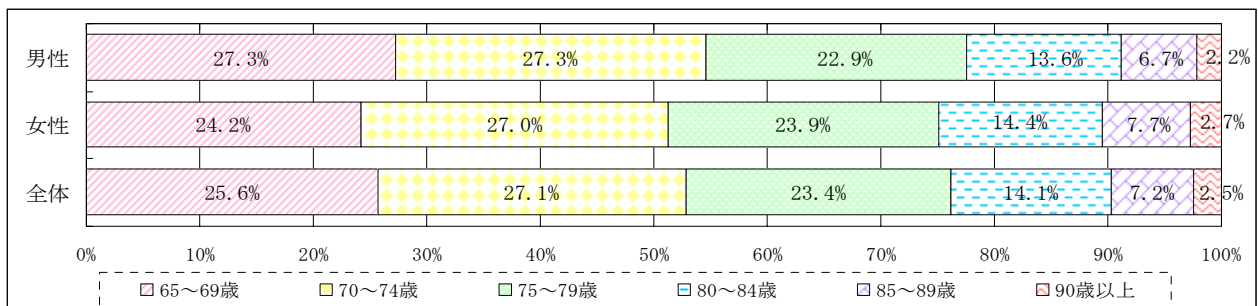
一般調査の回答者の属性は、表1及び図1のとおり。

【表1：一般調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90歳 以上	計
男性	4,730	4,738	3,966	2,365	1,157	377	17,333
(割合)	(27.3%)	(27.3%)	(22.9%)	(13.6%)	(6.7%)	(2.2%)	(100.0%)
女性	4,916	5,473	4,838	2,927	1,567	556	20,277
(割合)	(24.2%)	(27.0%)	(23.9%)	(14.4%)	(7.7%)	(2.7%)	100.0%
全体	9,646	10,211	8,804	5,292	2,724	933	37,610
(割合)	(25.6%)	(27.1%)	(23.4%)	(14.1%)	(7.2%)	(2.5%)	100.0%

【図1：一般調査の回答者の属性】



(2) 総合事業対象者調査

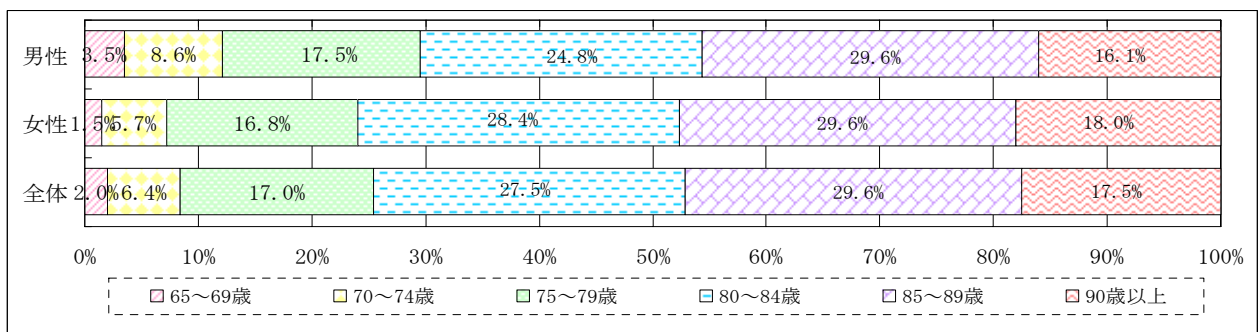
総合事業調査の回答者の属性は、表2及び図2のとおり。

【表2：総合事業調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90歳 以上	計
男性	25	61	124	176	210	114	710
(割合)	(3.5%)	(8.6%)	(17.5%)	(24.8%)	(29.6%)	(16.1%)	(100.0%)
女性	32	121	357	603	630	383	2,126
(割合)	(1.5%)	(5.7%)	(16.8%)	(28.4%)	(29.6%)	(18.0%)	(100.0%)
全体	57	182	481	779	840	497	2,836
(割合)	(2.0%)	(6.4%)	(17.0%)	(27.5%)	(29.6%)	(17.5%)	(100.0%)

【図2：総合事業調査の回答者の属性】



(3) 在宅要支援認定者調査

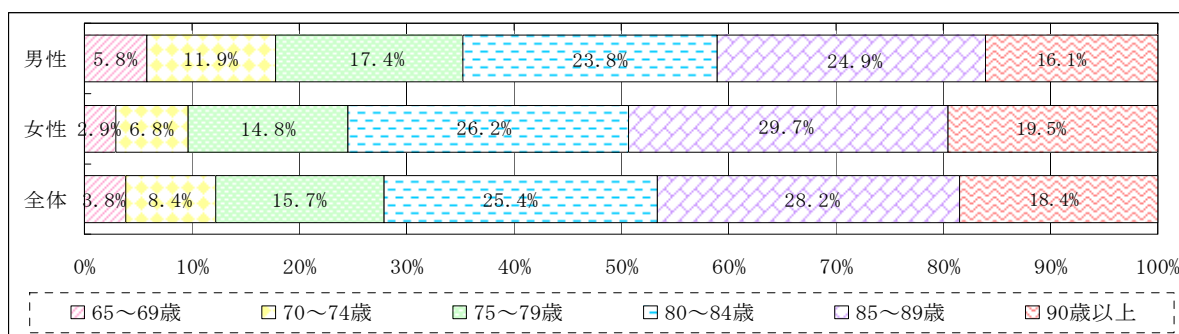
要支援者調査の回答者の属性は、表3及び図3のとおり。

【表3：要支援者調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90歳 以上	計
男性	141	288	420	573	601	388	2,411
(割合)	(5.8%)	(11.9%)	(17.4%)	(23.3%)	(24.9%)	(16.1%)	(100.0%)
女性	149	355	772	1,363	1,547	1,016	5,202
(割合)	(2.9%)	(6.8%)	(14.8%)	(26.2%)	(29.7%)	(19.5%)	(100.0%)
全体	290	643	1,192	1,936	2,148	1,404	7,613
(割合)	(3.8%)	(8.4%)	(15.7%)	(25.4%)	(28.2%)	(18.4%)	(100.0%)

【図3：要支援者調査の回答者の属性】



(4) 在宅要介護認定者調査

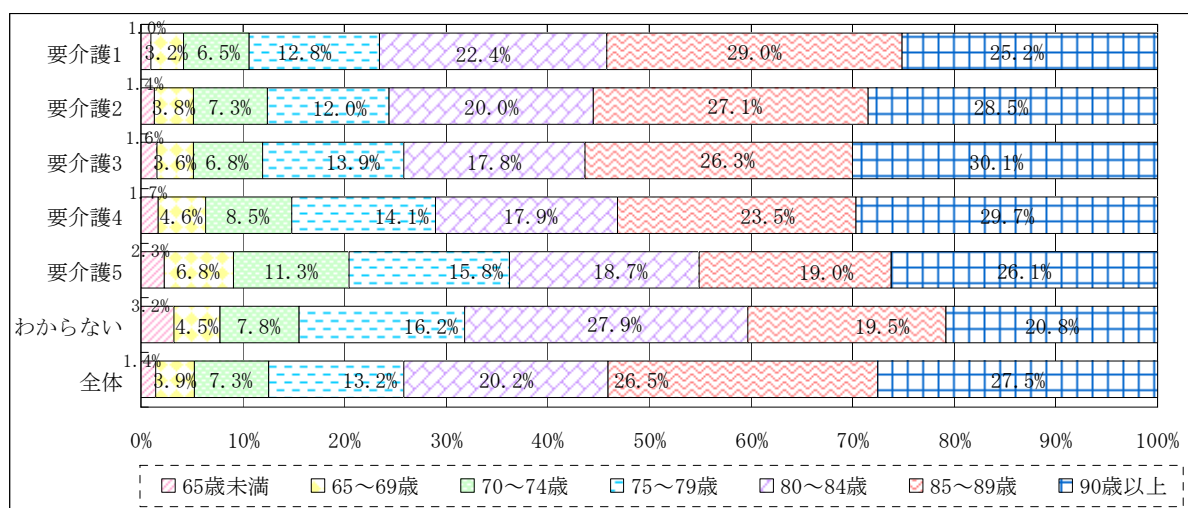
要介護者調査の回答者の属性は、表4及び図4のとおり。

【表4：要介護者調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計
要介護1 (割合)	50 (1.0%)	164 (3.2%)	335 (6.5%)	665 (12.8%)	1,161 (22.4%)	1,502 (29.0%)	1,304 (25.2%)	5,181 (100.0%)
要介護2 (割合)	56 (1.4%)	155 (3.8%)	302 (7.3%)	495 (12.0%)	827 (20.0%)	1,117 (27.1%)	1,175 (28.5%)	4,127 (100.0%)
要介護3 (割合)	45 (1.6%)	101 (3.6%)	190 (6.8%)	390 (13.9%)	499 (17.8%)	737 (26.3%)	844 (30.1%)	2,806 (100.0%)
要介護4 (割合)	32 (1.7%)	87 (4.6%)	159 (8.5%)	265 (14.1%)	336 (17.9%)	440 (23.5%)	556 (29.7%)	1,875 (100.0%)
要介護5 (割合)	24 (2.3%)	71 (6.8%)	118 (11.3%)	165 (15.8%)	195 (18.7%)	198 (19.0%)	273 (26.1%)	1,044 (100.0%)
わからない (割合)	5 (3.2%)	7 (4.5%)	12 (7.8%)	25 (16.2%)	43 (27.9%)	30 (19.5%)	32 (20.8%)	154 (100.0%)
全体 (割合)	212 (1.4%)	585 (3.9%)	1,116 (7.3%)	2,005 (13.2%)	3,061 (20.2%)	4,024 (26.5%)	4,184 (27.5%)	15,187 (100.0%)

【図4：要介護者調査の回答者の属性】



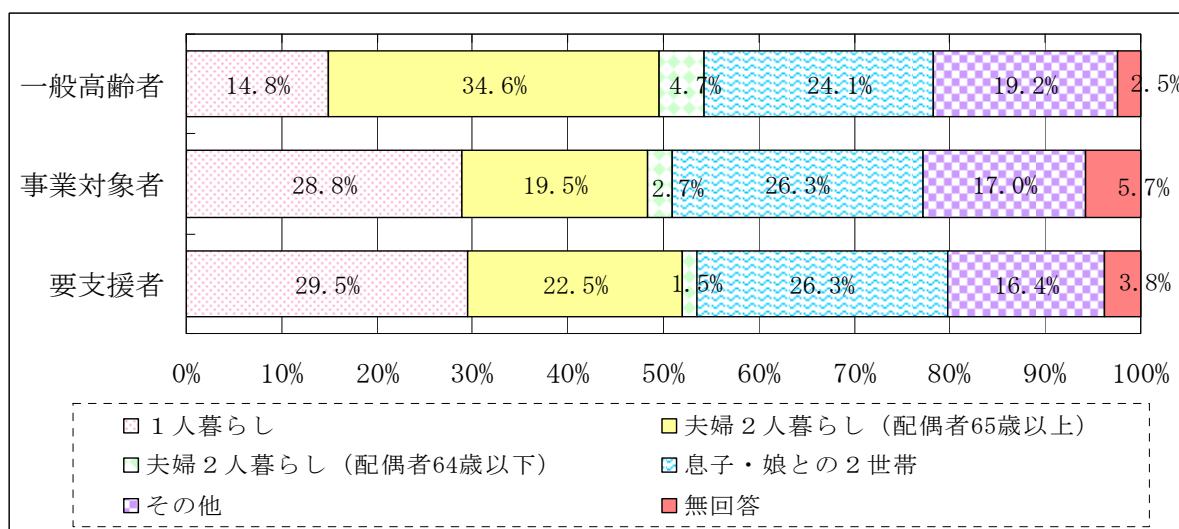
2 一般調査、総合事業調査及び要支援者調査の共通項目の結果

※グラフの表記について、一般調査の対象者を一般高齢者、総合事業調査の対象者を事業対象者、要支援者調査の対象者を要支援者と表記する。また、特に表記のあるもの以外（例：65～69歳）は一般高齢者とする。

(1) 家族や生活状況について

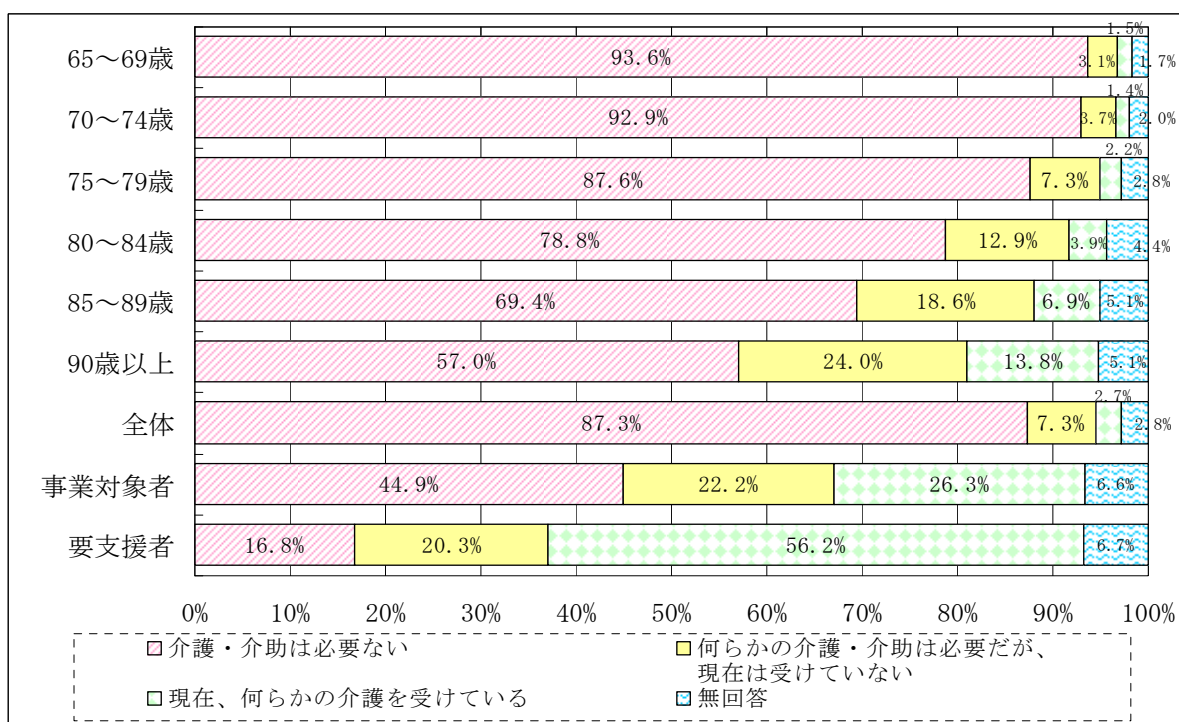
① 家族構成について

一般高齢者は夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）、事業対象者、要支援者は1人暮らしの割合が約3割と一番高く、いずれも、高齢者のみ世帯（1人暮らし及び夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上））の割合が約5割となっている。



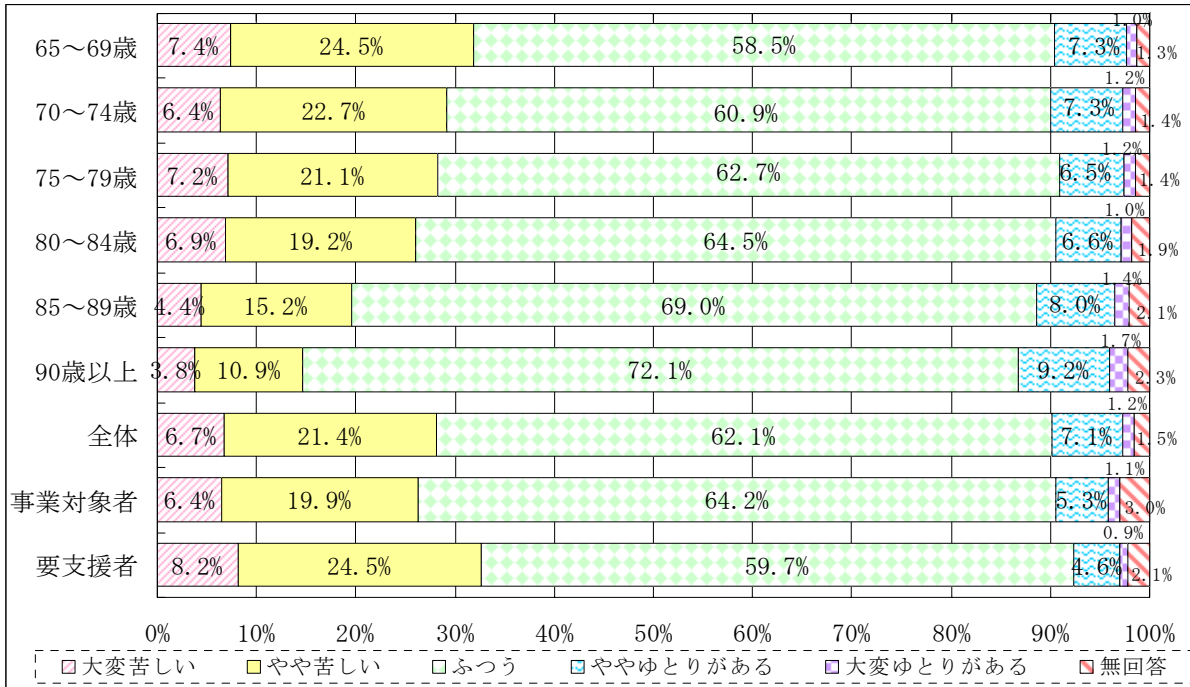
② 普段の生活での介護・介助について

一般高齢者の70代までは約9割が介護・介助は必要ない回答している一方、80代では約2割、90歳以上では約4割が何らかの介護・介助が必要と回答している。また、事業対象者は約7割、要支援者は約4割が現在介護・介助を受けていない。



③ 現在の経済的な暮らしの状況について

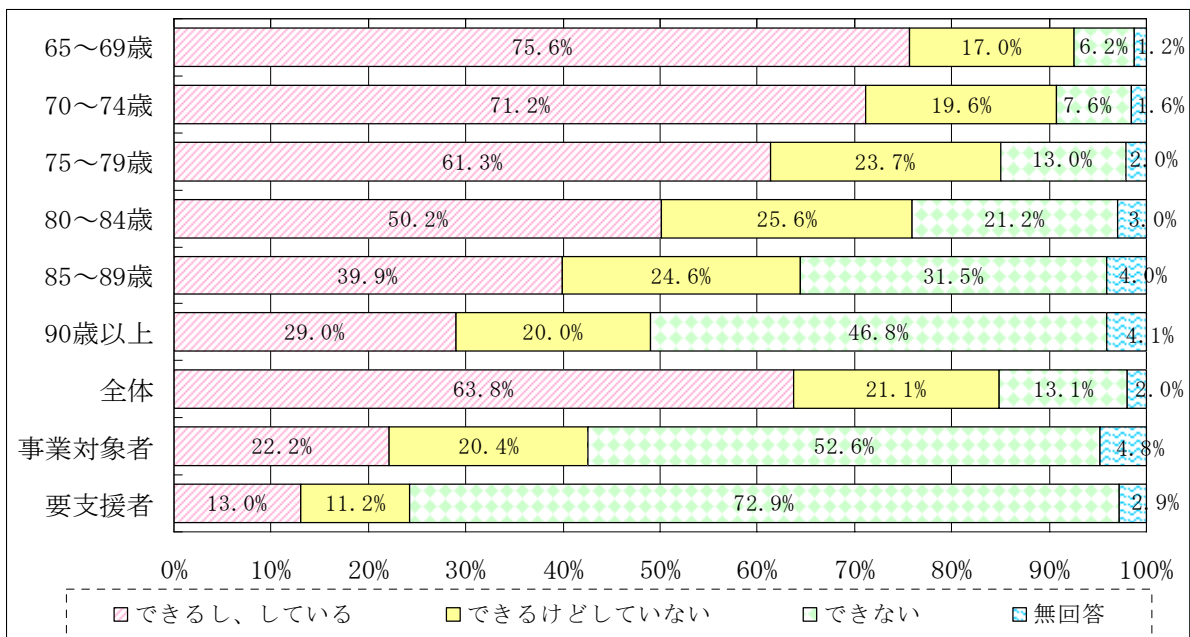
経済的な暮らしの状況が苦しい（大変苦しい、やや苦しい）と回答した割合は一般高齢者、事業対象者、要支援者ともに3割前後となっている。また、一般高齢者では年齢が上がるにつれて、苦しいと回答した割合は低下している。



(2) からだを動かすことについて

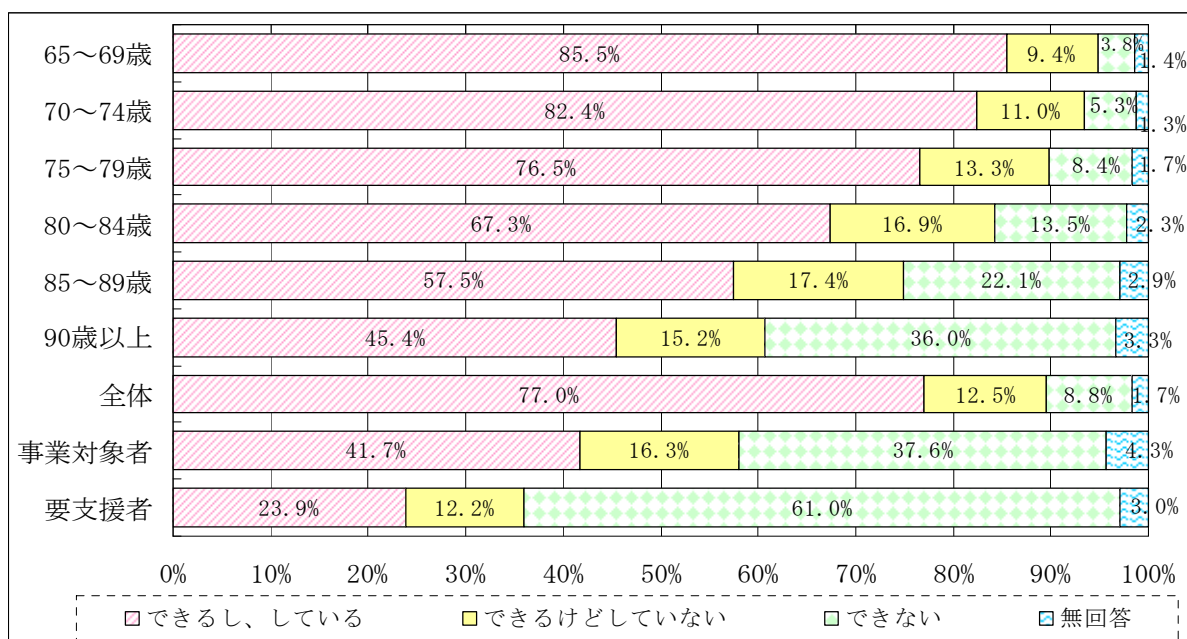
① 階段を昇ることについて

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるし、していると回答した割合は、一般高齢者の60代では約8割であるのに対し、90歳以上では、約3割と年齢があがるにつれ低下している。また、事業対象者では、約2割、要支援者では約1割となっている。



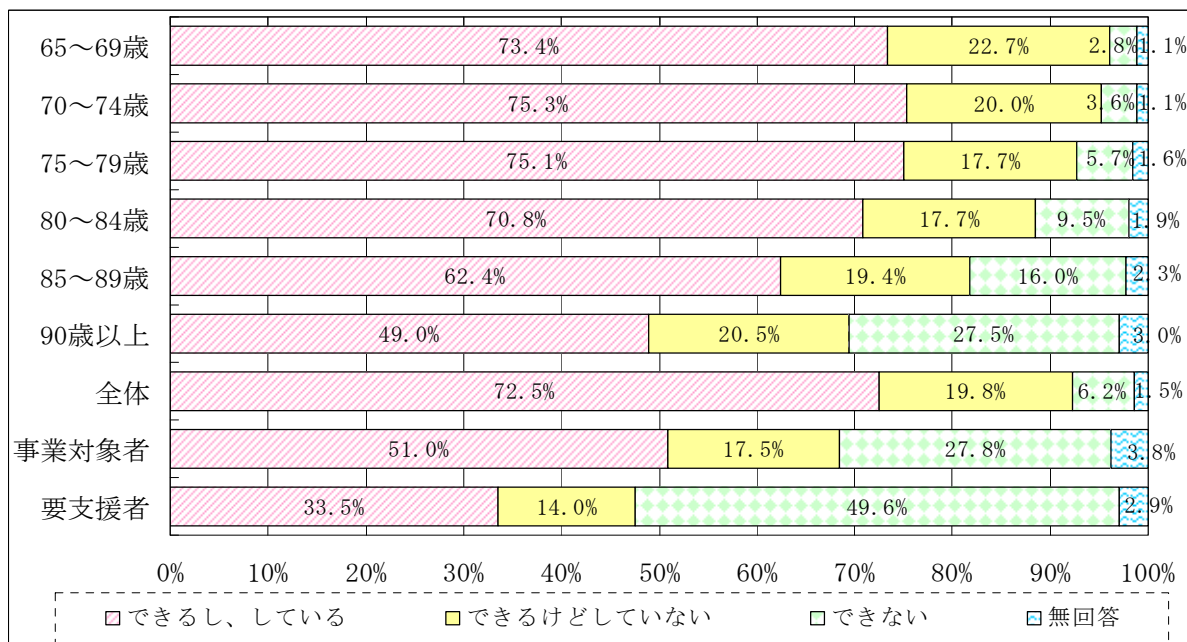
② 椅子からの立ち上がりについて

椅子に座った状態から何もつかまらずに立つことができるし、していると回答した割合は、一般高齢者の60代では約9割であるのに対し、90歳以上では、約5割と年齢があがるにつれ低下している。また、事業対象者では約4割、要支援者では約2割となっている。



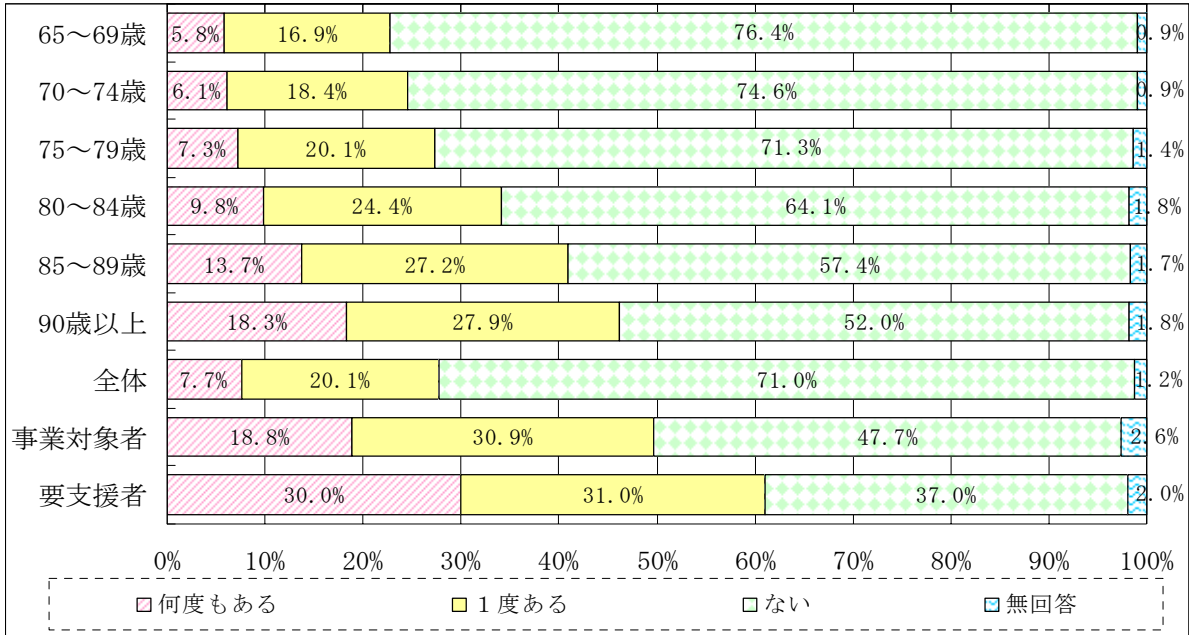
③ 15分間の歩行について

15分位続けて歩くことができないと回答した割合は、一般高齢者では、年齢と共に上がっていき、90歳以上では約3割となっている。また、事業対象者では、約5割、要支援者では約3割となっている。



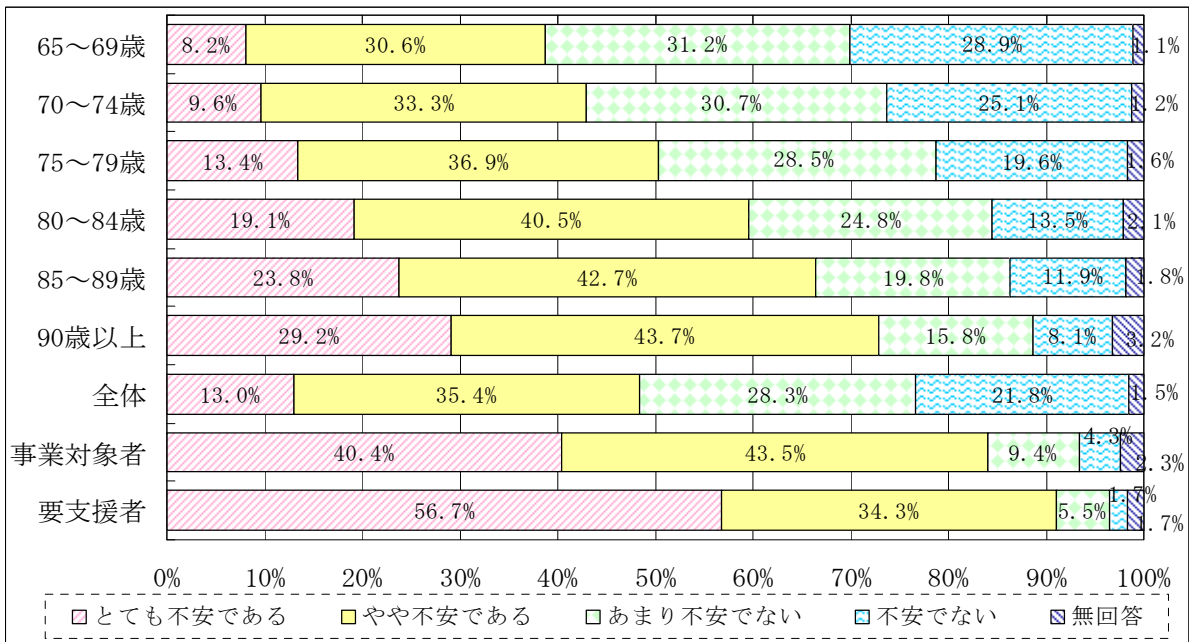
④ 過去1年間に転んだ経験について

過去1年間に転んだ経験がある(何度もある、1度ある)割合は、一般高齢者の60代では約2割となっているが、90歳以上では約5割と年齢があがるにつれ増加している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約6割となっている。



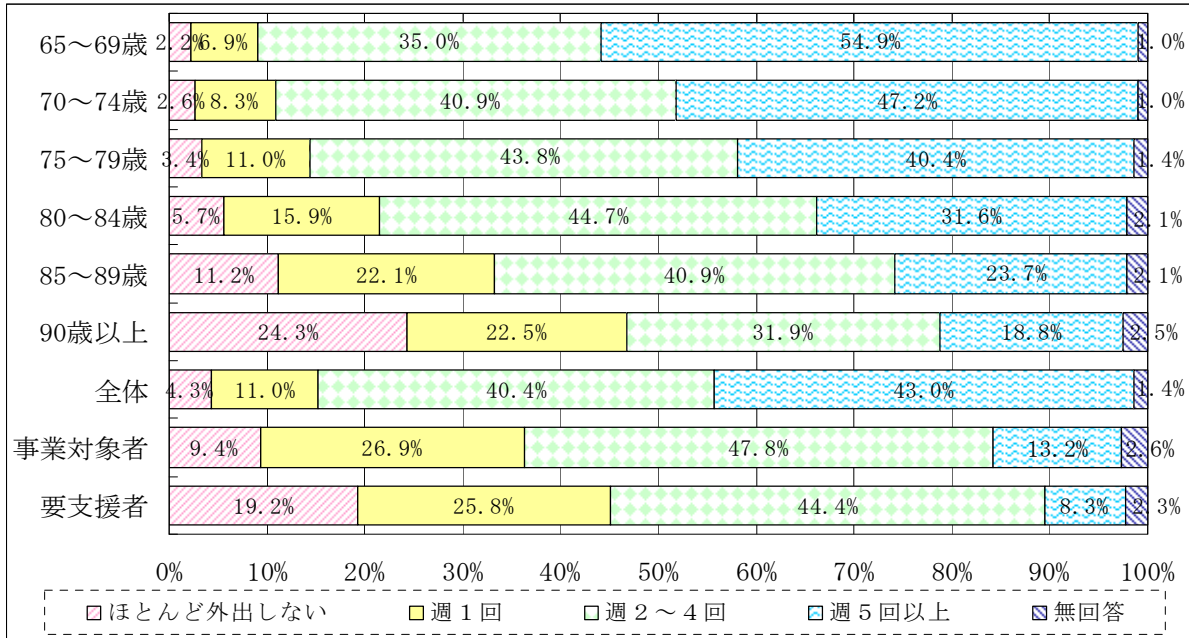
⑤ 転倒に対する不安について

転倒に対して不安(とても不安である、やや不安である)と回答した割合は、一般高齢者の60代では約4割となっているが、90歳以上では約7割と年齢があがるにつれ増加している。また、事業対象者では約8割、要支援者では約9割となっている。



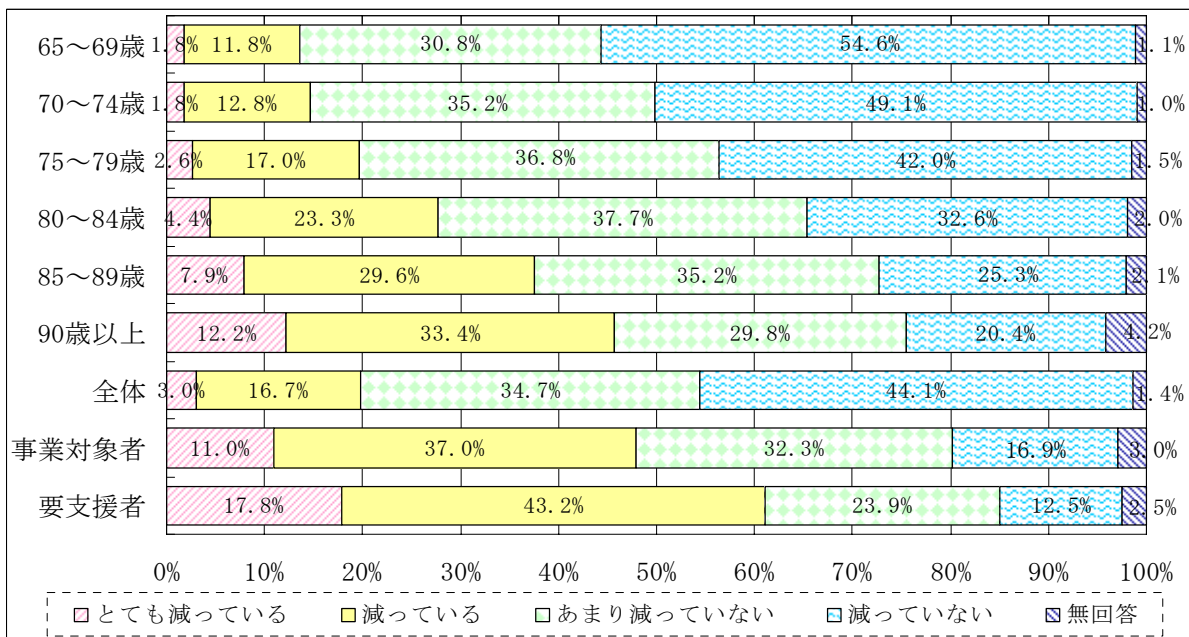
⑥ 外出の頻度について

1週間の外出頻度は、一般高齢者の75歳未満では週5回以上と回答した割合が約5割と一番多くなっているが、90歳以上では、週に1回、もしくはほとんど外出しないと回答した割合が約5割と年齢があがるにつれ外出する頻度が減っている。また、事業対象者、要支援者共に、週2～4回以上と回答した割合が一番多く、事業対象者では約5割、要支援者では約4割となっている。



⑦ 昨年と比べて外出回数の減少について

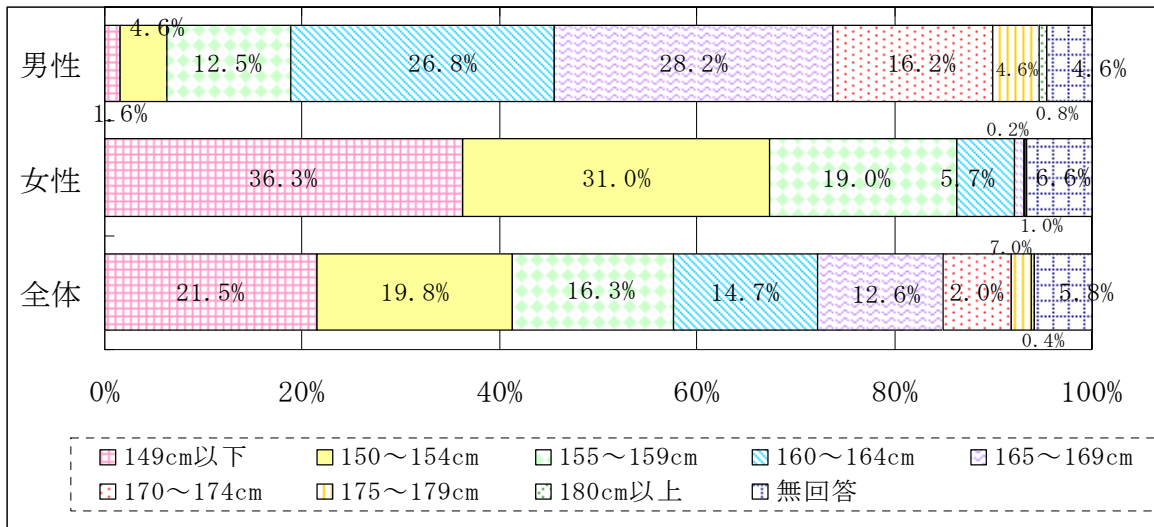
昨年と比べて外出機会がとて減っている、減っていると回答した割合は、一般高齢者の60代では約1割であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ外出機会が減少している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約6割となっている。



(3) 食べることについて

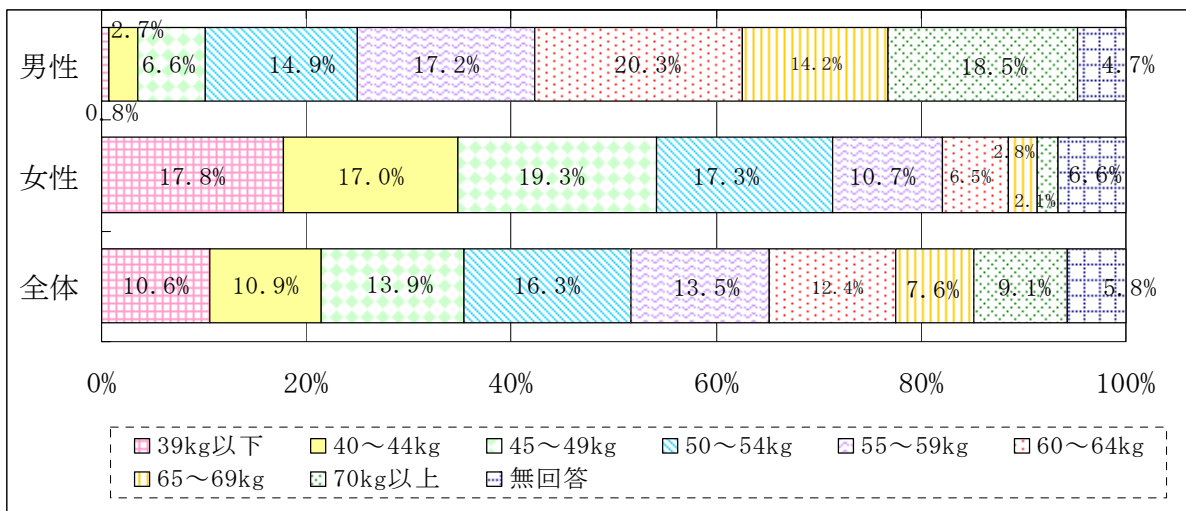
① 身長について

男性は165～169cmが一番多く約3割、女性は149cm以下が一番多く約4割となっている。



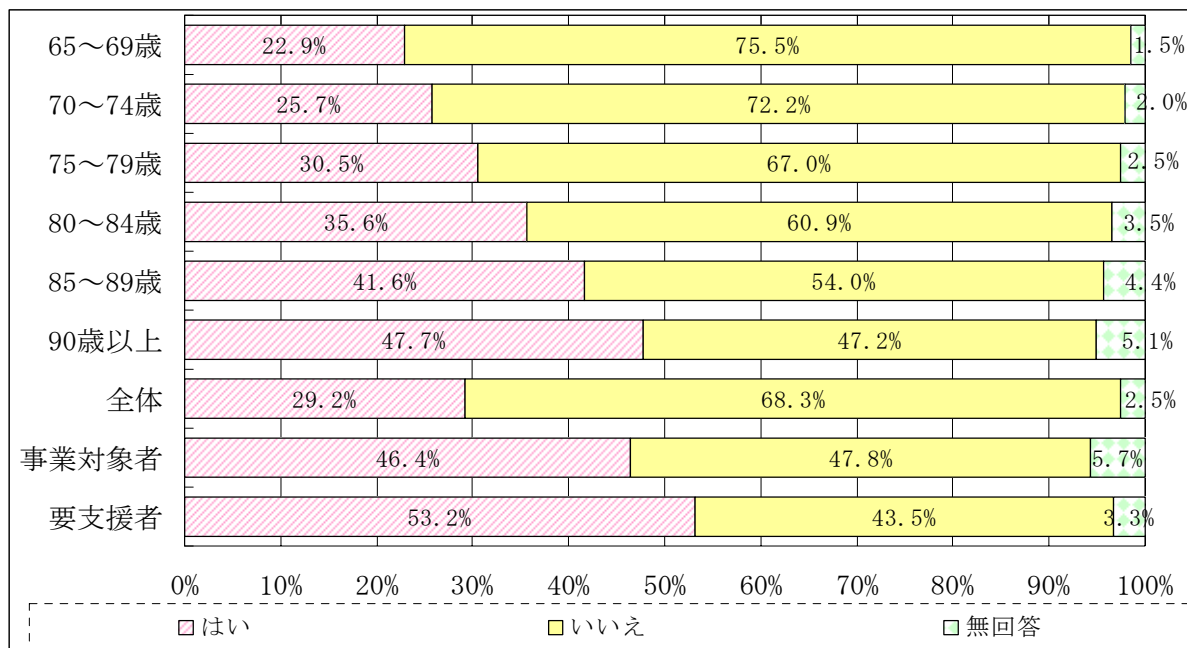
② 体重について

体重については、男性は60～64kg、女性は45～49kgが一番多く、ともに約2割となっている。



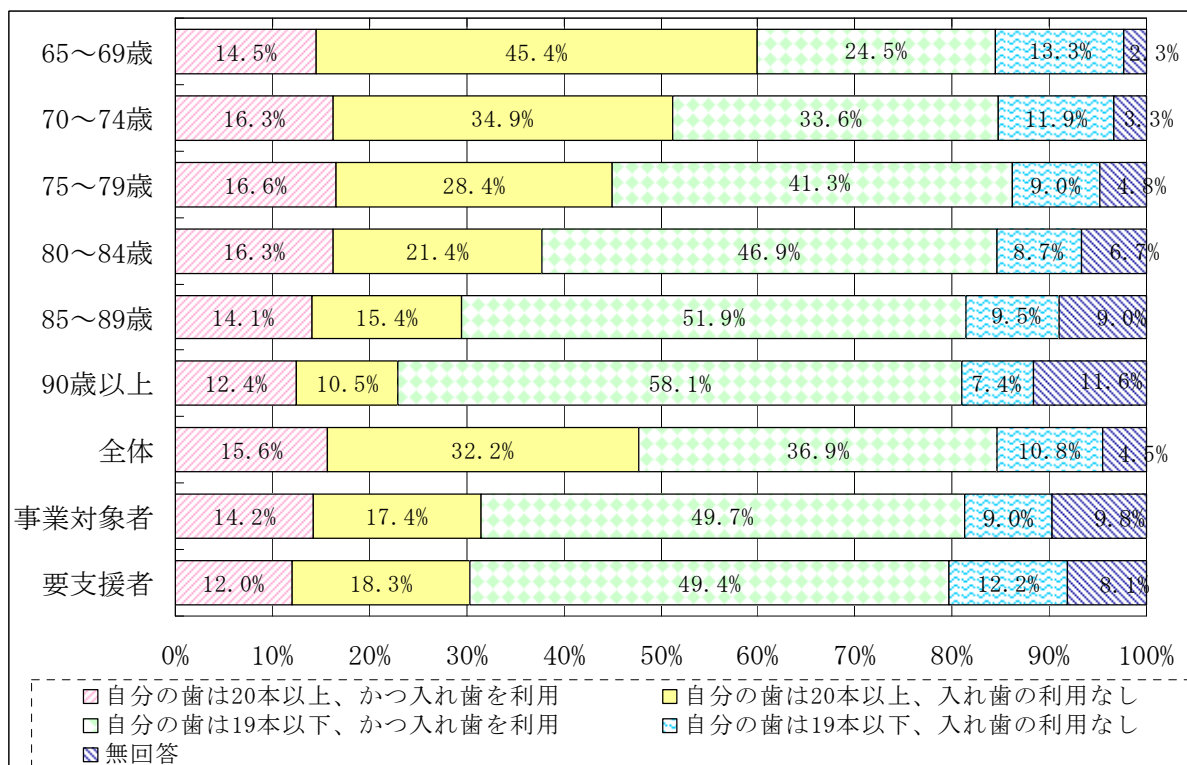
③ 半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて

半年前に比べて固いものが食べにくくなったと回答した割合は、一般高齢者の60代では約2割であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ増加している。また、事業対象者、要支援者共に約5割となっている。



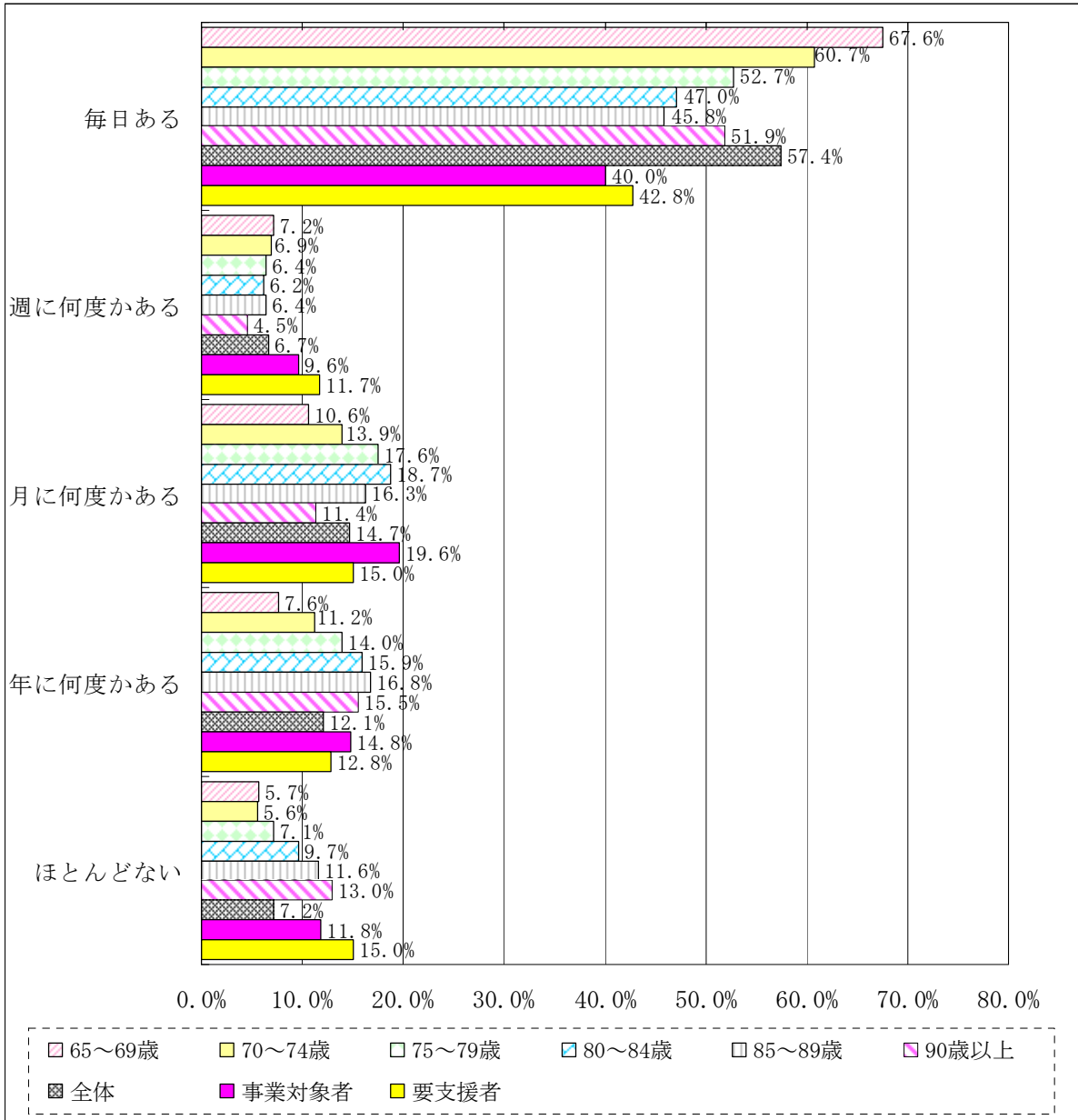
④ 歯の数と入れ歯の利用状況について

一般高齢者の60代では自分の歯が20本以上ある割合が約6割であるのに対し、90歳以上では約2割と年齢が上がるにつれ減少する傾向となっている。また、事業対象者、要支援者では共に約3割となっている。



⑤ 誰かと食事をする機会について

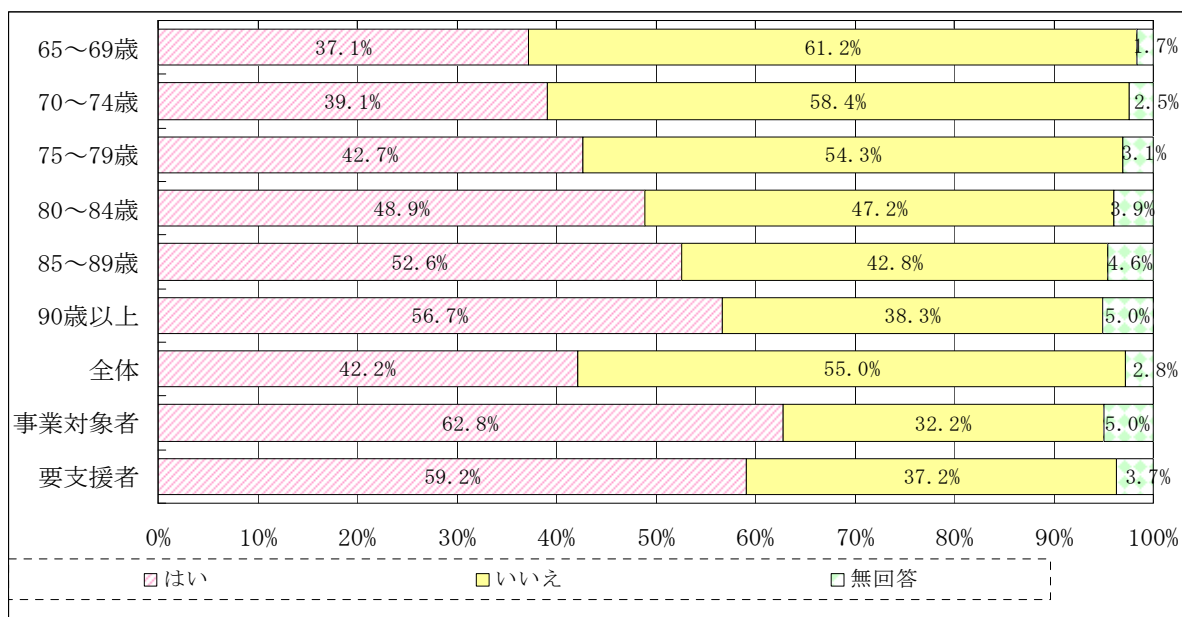
誰かと食事をする機会が毎日あると回答した割合は、一般高齢者のすべての年齢階級、要支援者共に4割を超えており、一番高くなっている。一方、誰かと食事をする機会がほとんどないと回答した割合は、一般高齢者、総合事業対象者、要支援者の順に高くなっている。



(4) 毎日の生活について

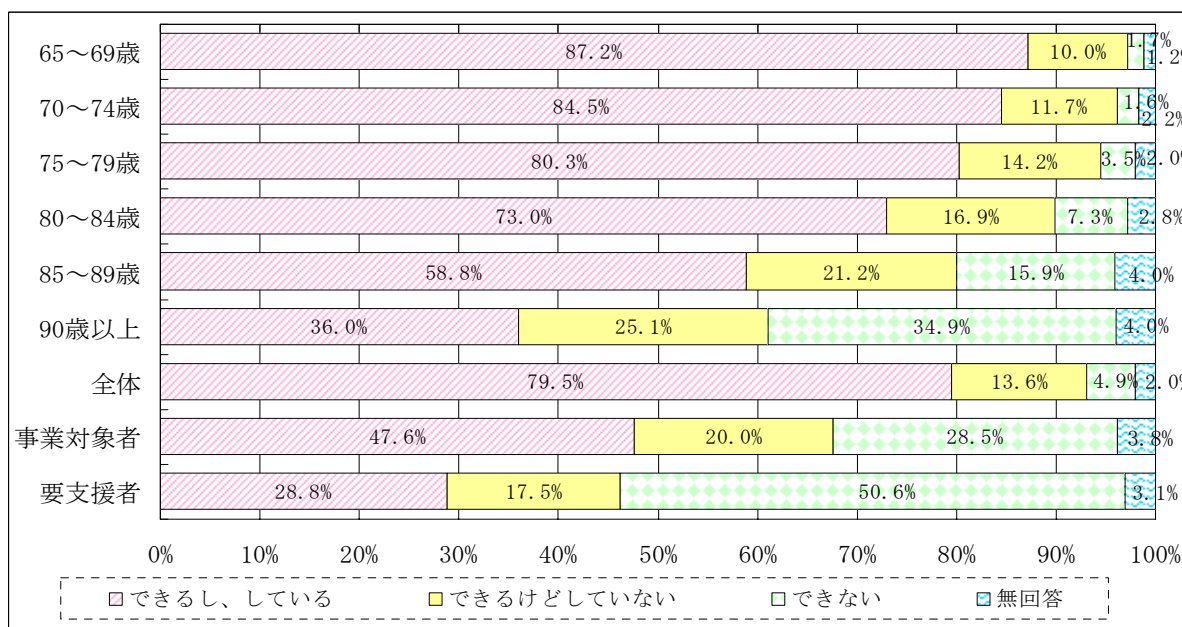
① 忘れ物の多さについて

物忘れが多いと感じている割合は一般高齢者の80歳未満では約4割であるのに対し、90歳以上では約6割と年齢が上がるにつれ増加している。また、事業対象者、要支援者共に約6割となっている。



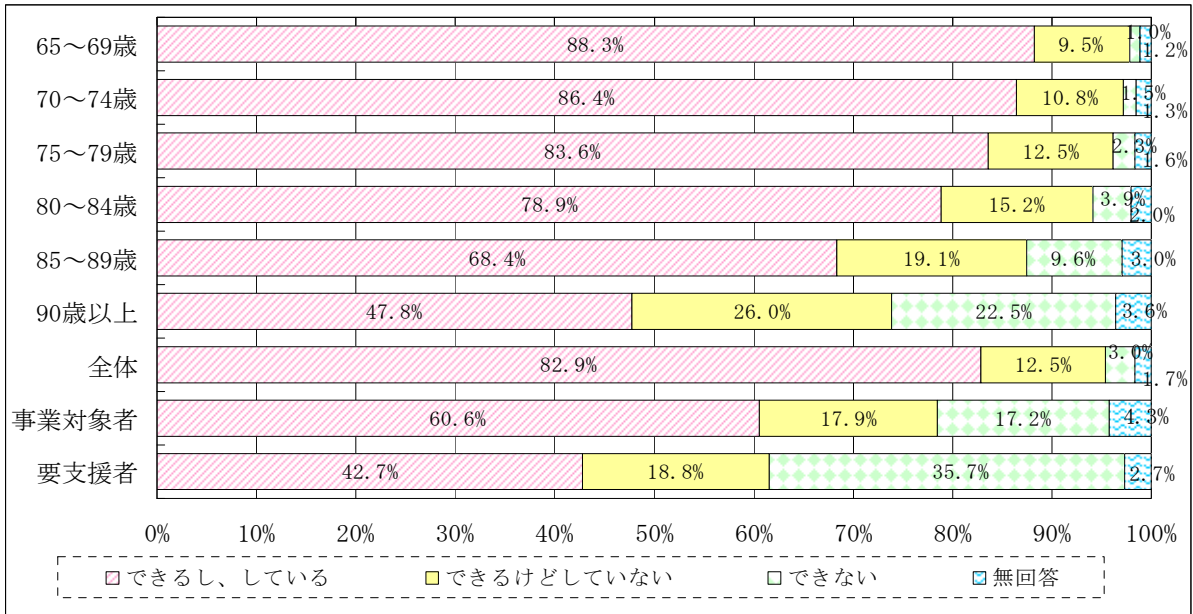
② バスや電車を使った外出について

バスや電車を使って1人で外出できるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では8割以上であるのに対し、90歳以上では約4割と年齢が上がるにつれ減少している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約3割となっている。



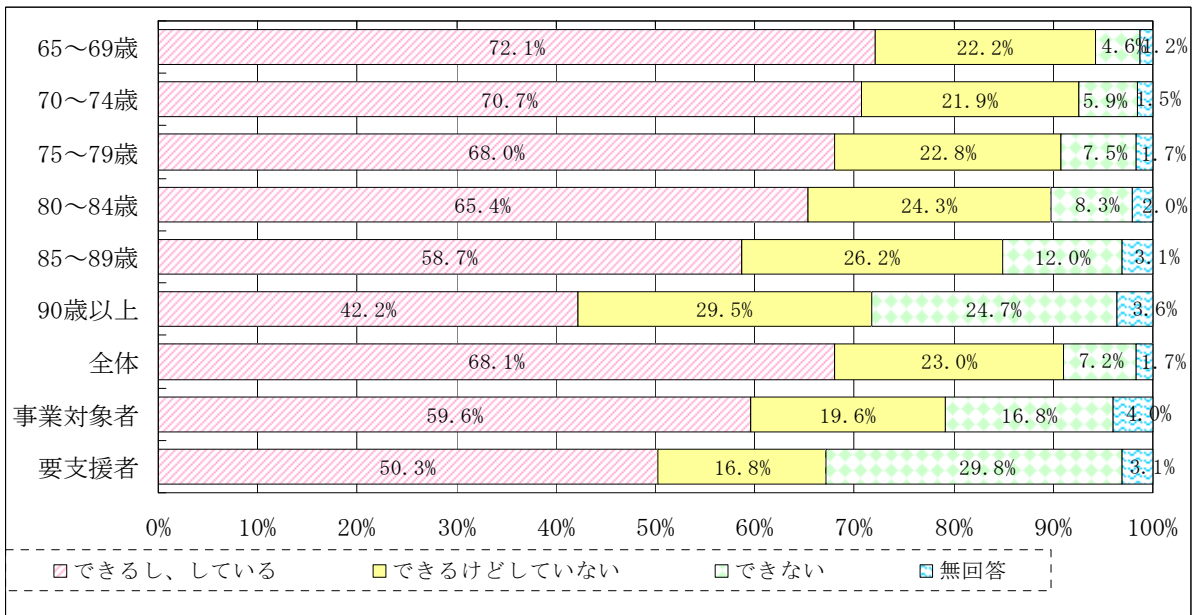
③ 食品・日用品の買い物について

自分で食品・日用品の買い物をできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では8割以上であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ減少している。また、事業対象者では約6割、要支援者では約4割となっている。



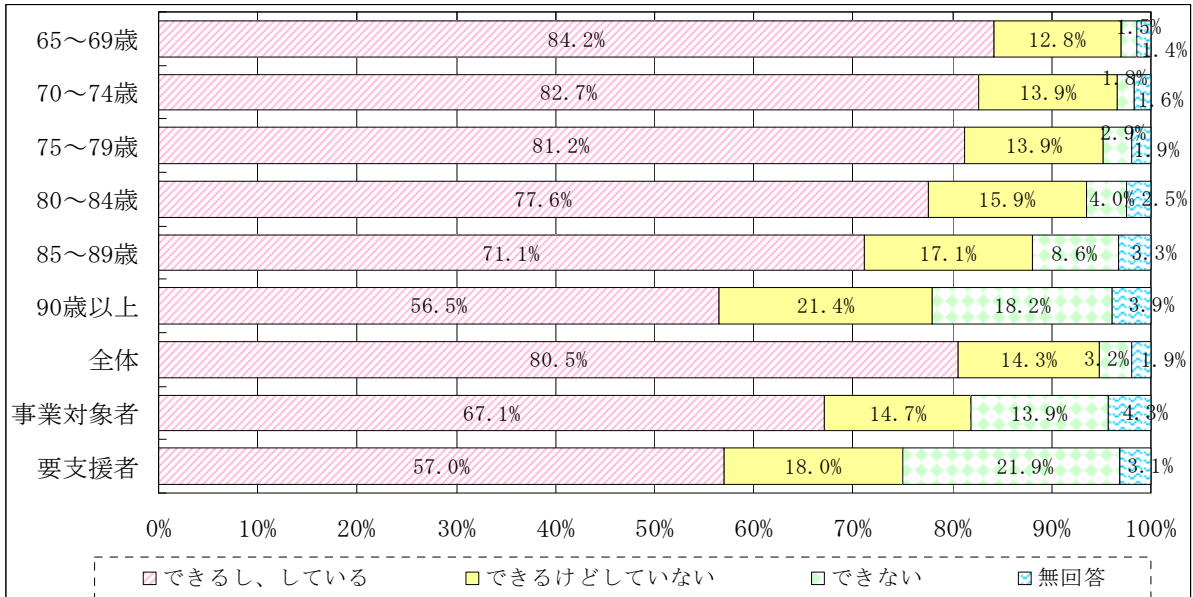
④ 食事の用意について

自分で食事の用意をできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では約7割であるのに対し、90歳以上では約4割と年齢が上がるにつれ減少している。また、事業対象者では約6割、要支援者では約5割となっている。



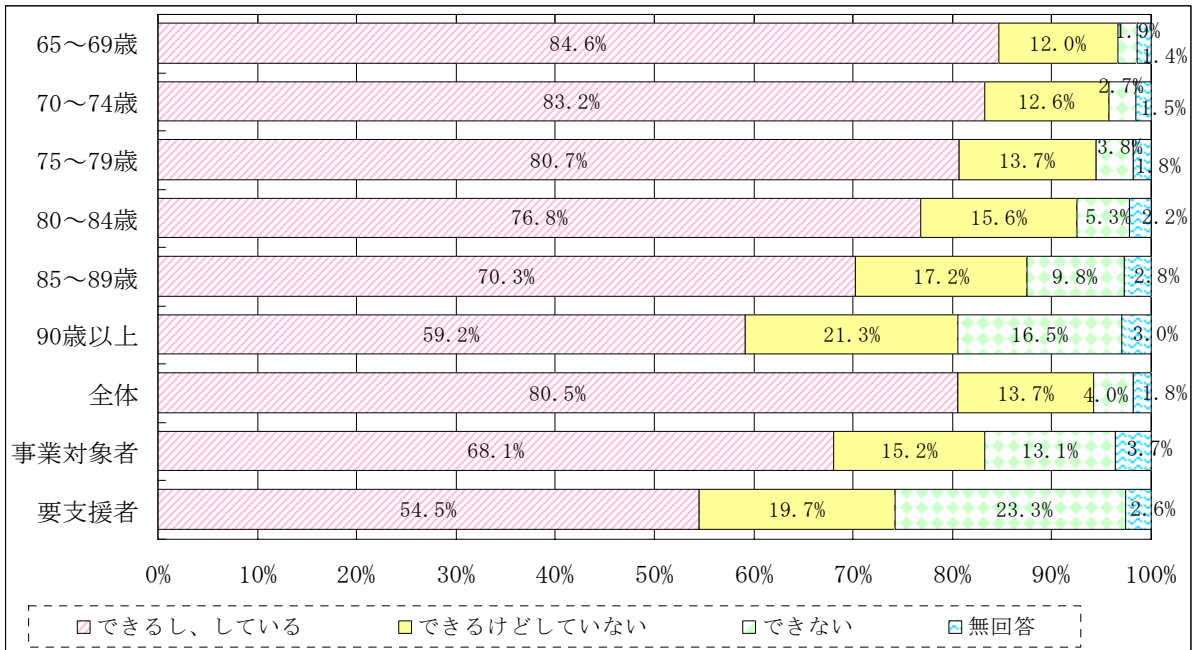
⑤ 請求書の支払いについて

自分で請求書の支払をできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では8割を超えているのに対し、90歳以上では約6割となっている。また、事業対象者では約7割、要支援者では約6割となっている。



⑥ 預貯金の出し入れについて

自分で預貯金の出し入れをできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では約8割であるのに対し、90歳以上では約6割、事業対象者では約7割、要支援者では約6割となっている。



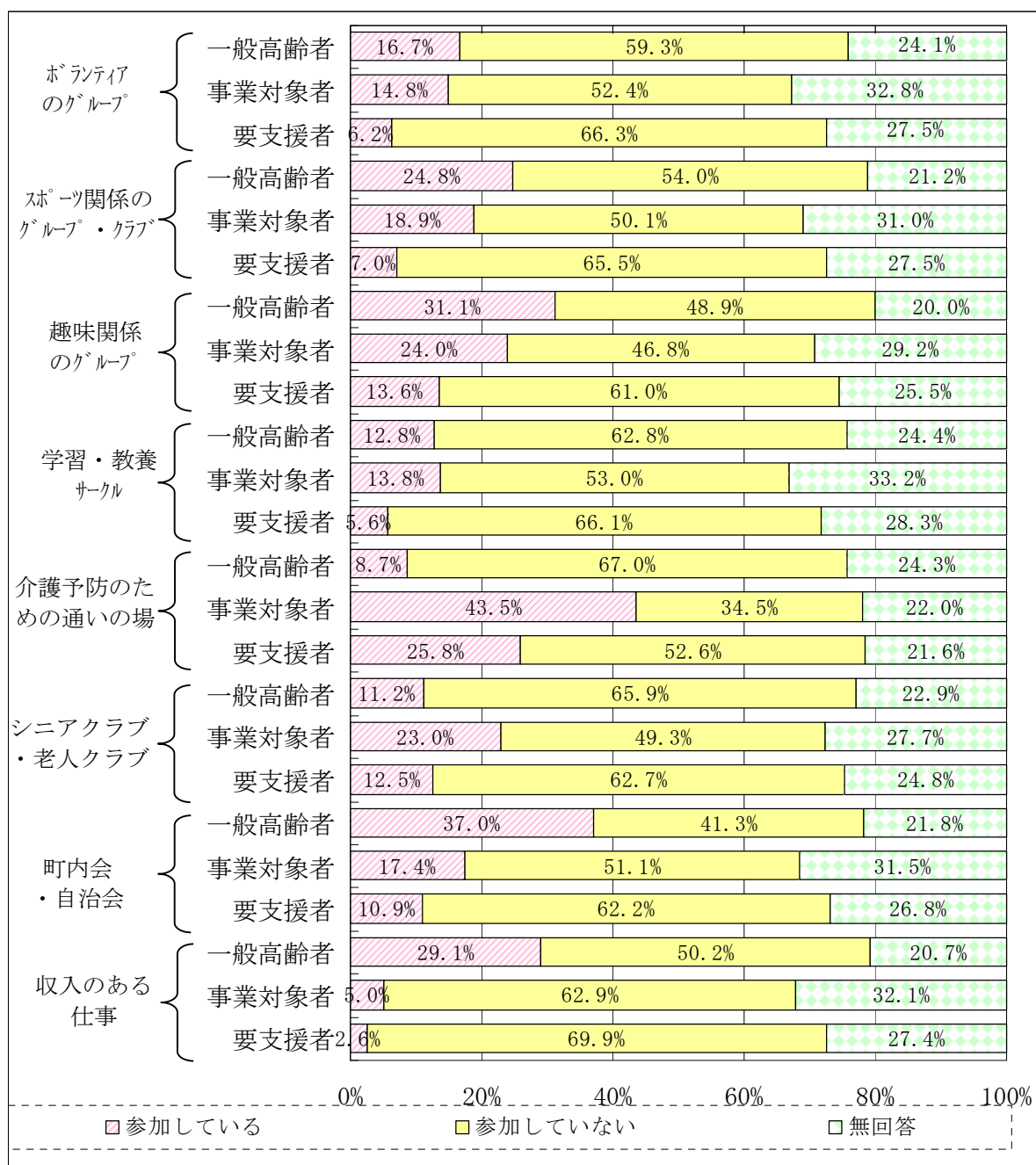
(5) 地域での活動について

① 地域活動の参加の有無について

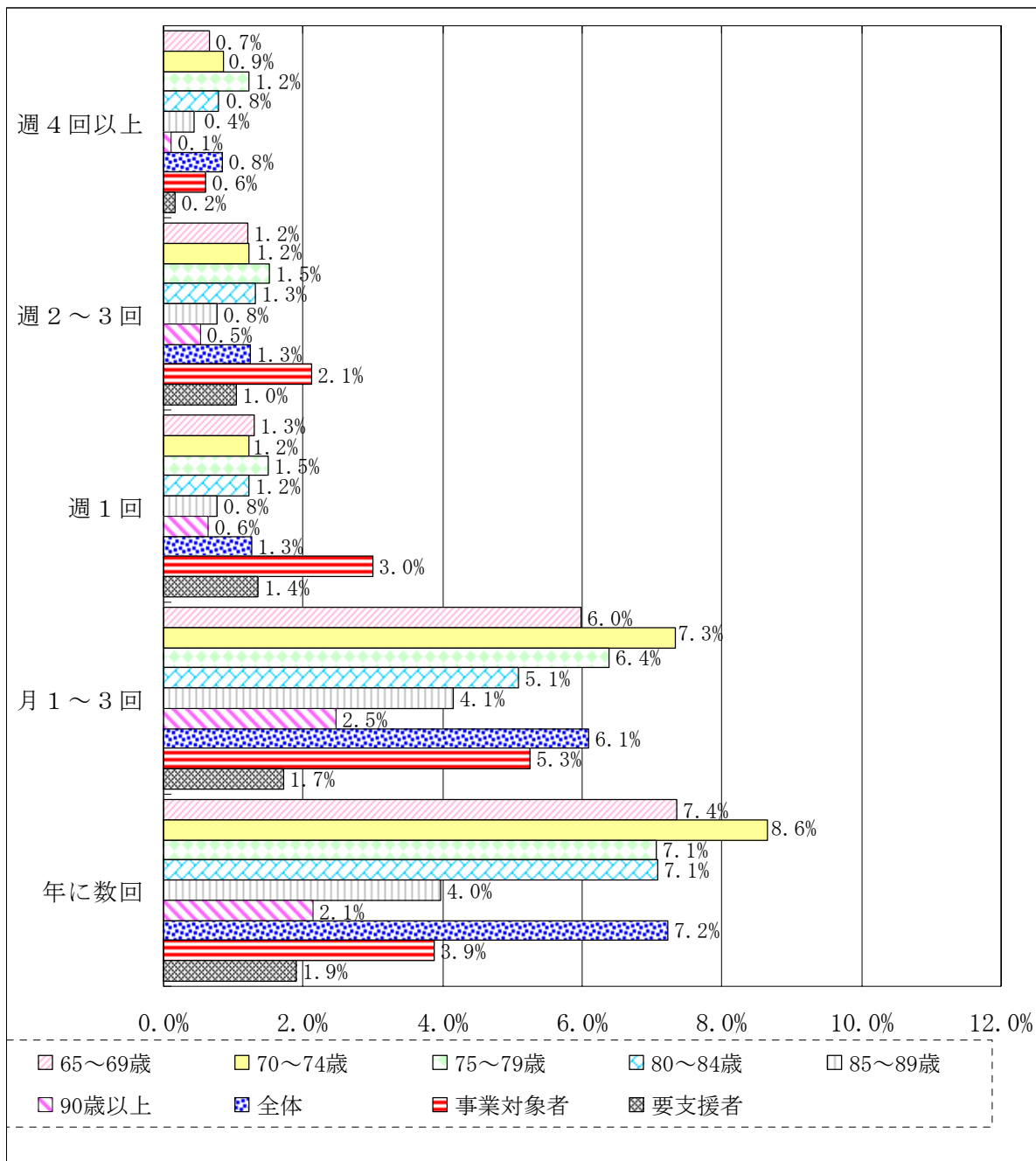
地域活動の参加状況については、一般高齢者では自治会・町内会への参加が一番多く約4割となっており、続いて趣味関係が約3割となっている。頻度をみると、自治会・町内会への参加が年に数回の参加が一番多いのに対し、趣味関係が月に1～3回が一番多くなっている。

事業対象者、要支援者では介護予防のための通いの場への参加が一番多く、事業対象者は約4割、要支援者は約3割となっている。また、参加の頻度については、週に1回参加している割合が一番多く、事業対象者は約2割、要支援者は約1割となっている。

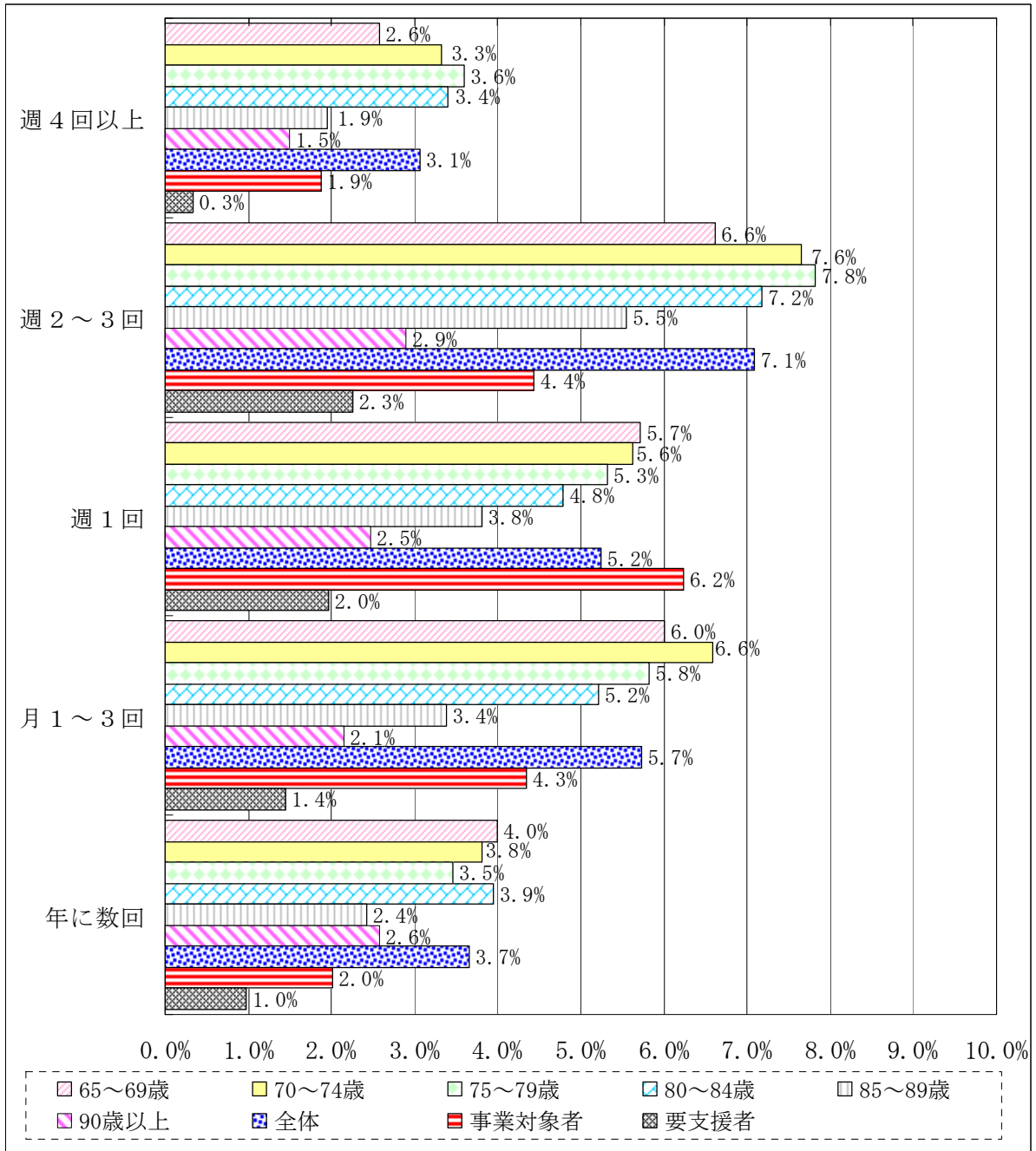
また、種類ごとの参加の頻度は図4～7のとおり。



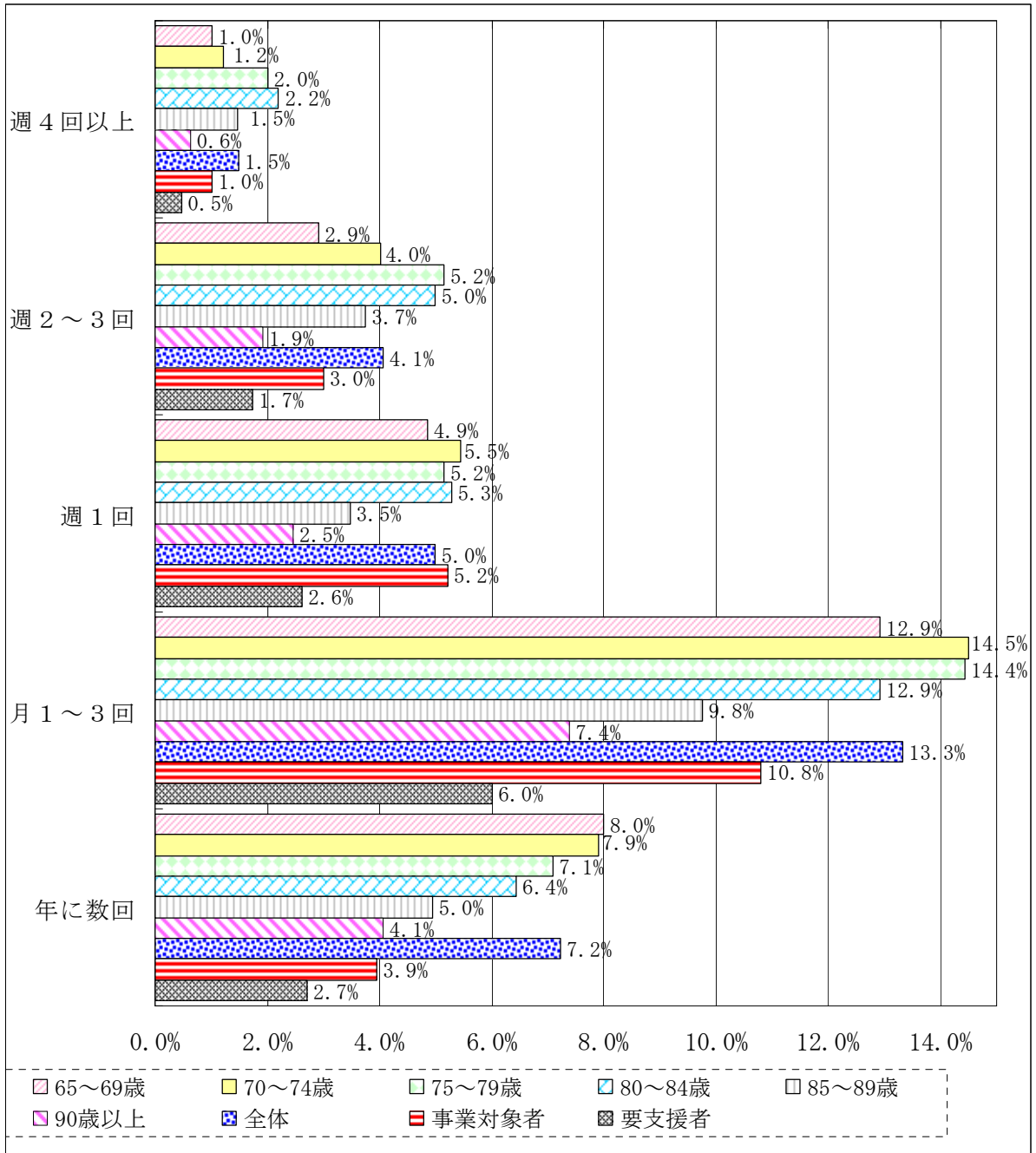
【図4：ボランティアのグループへの参加頻度】



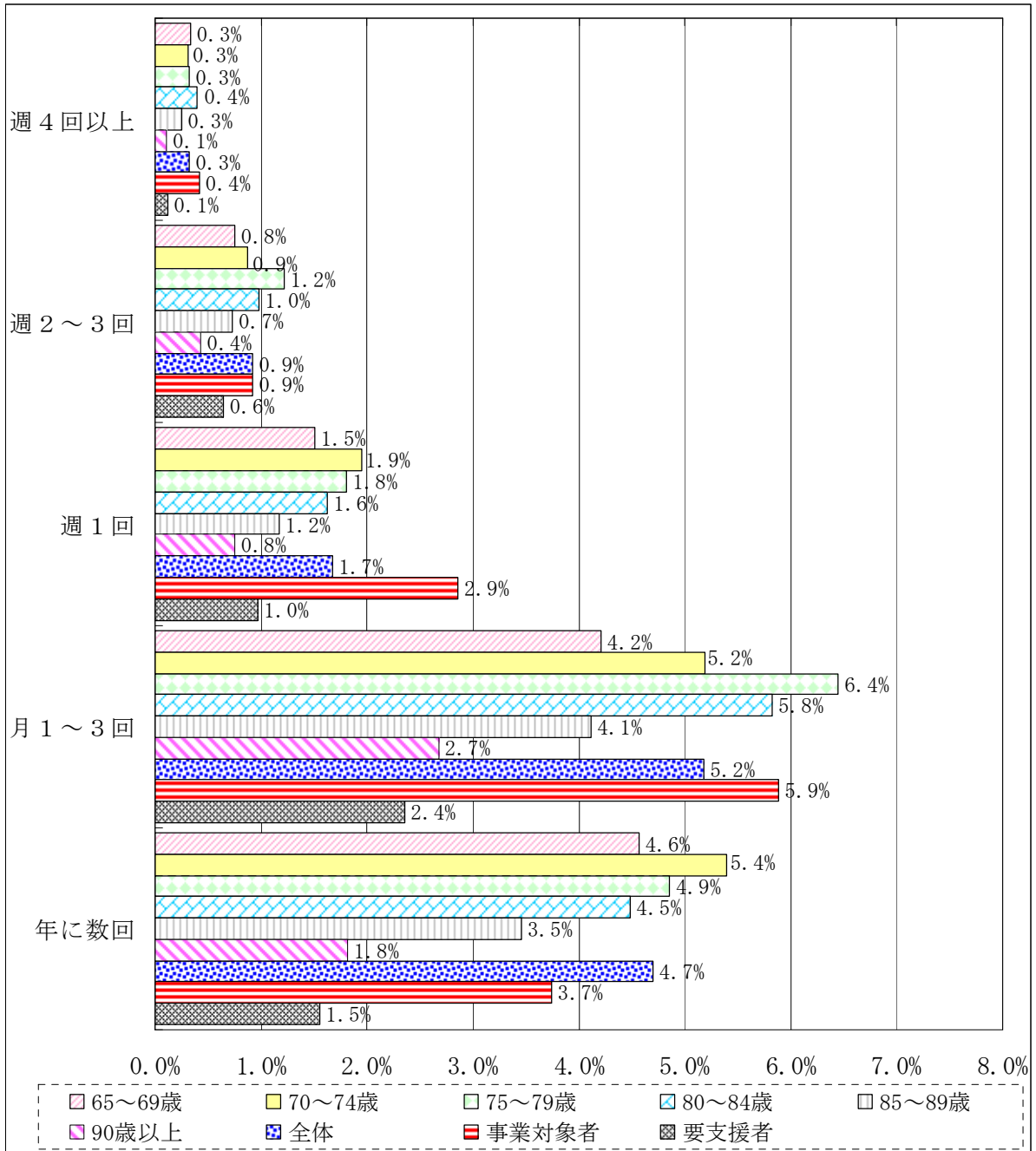
【図5：スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度】



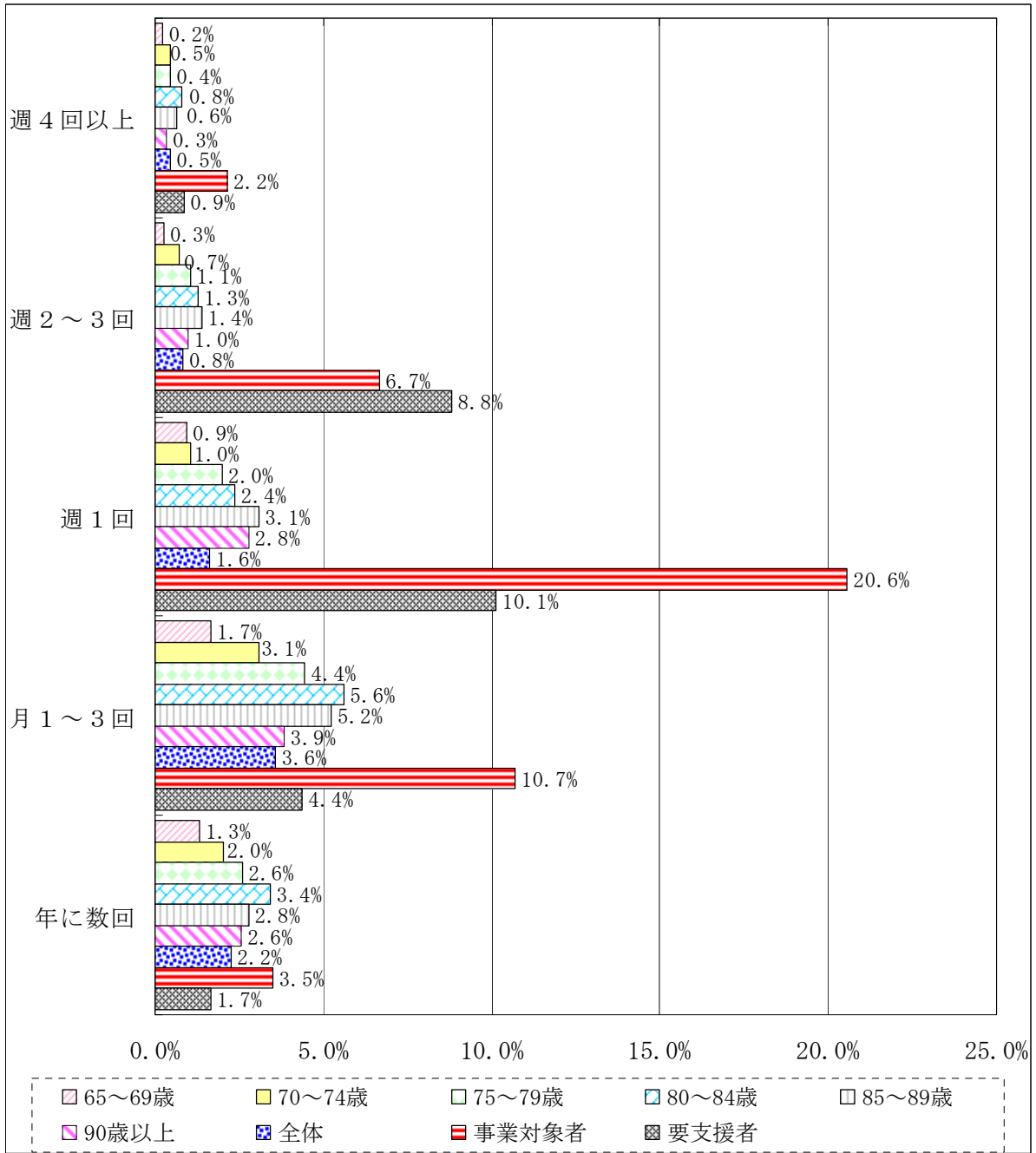
【図6：趣味関係のグループへの参加頻度】



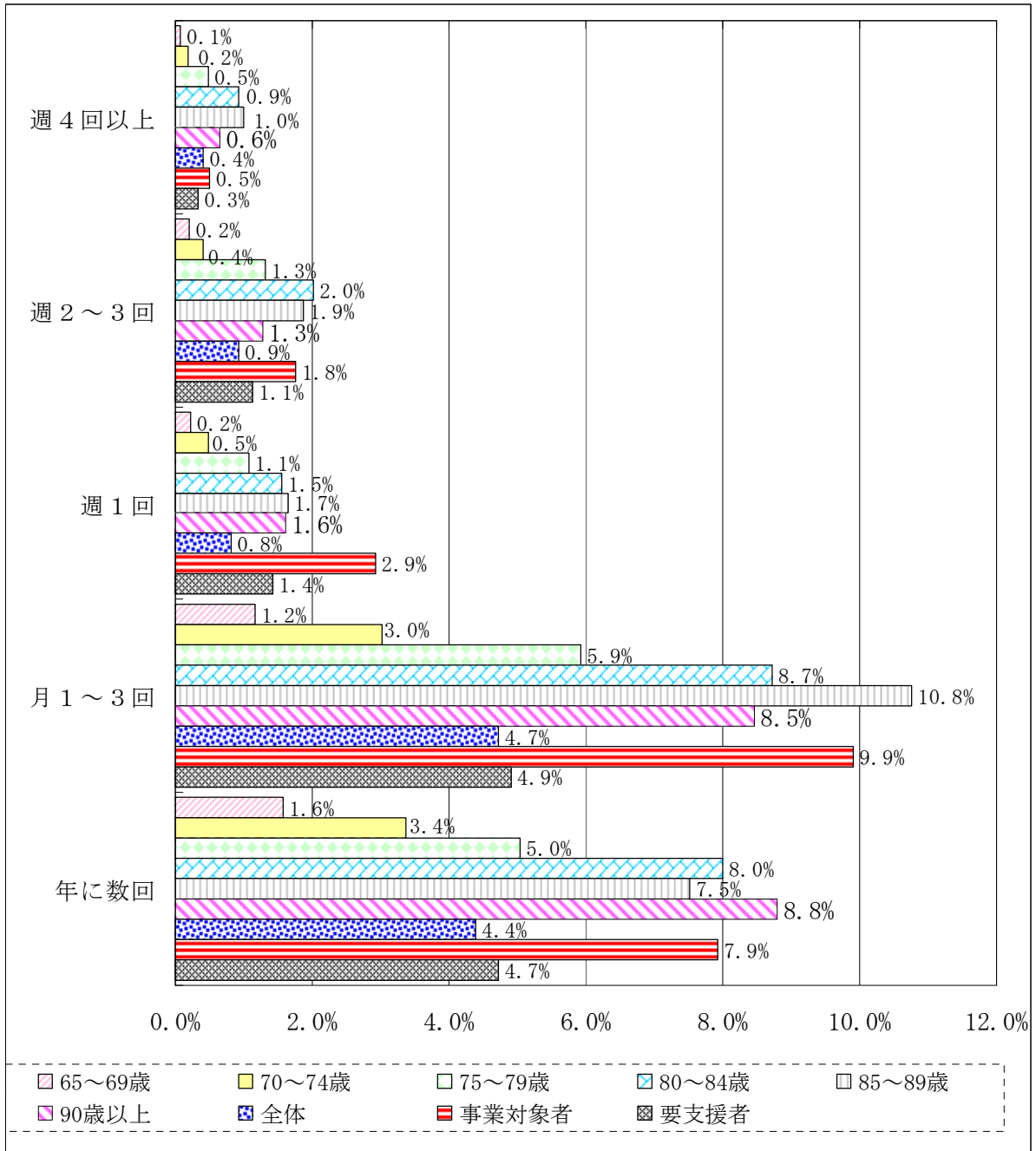
【図7：学習・教養サークルへの参加頻度】



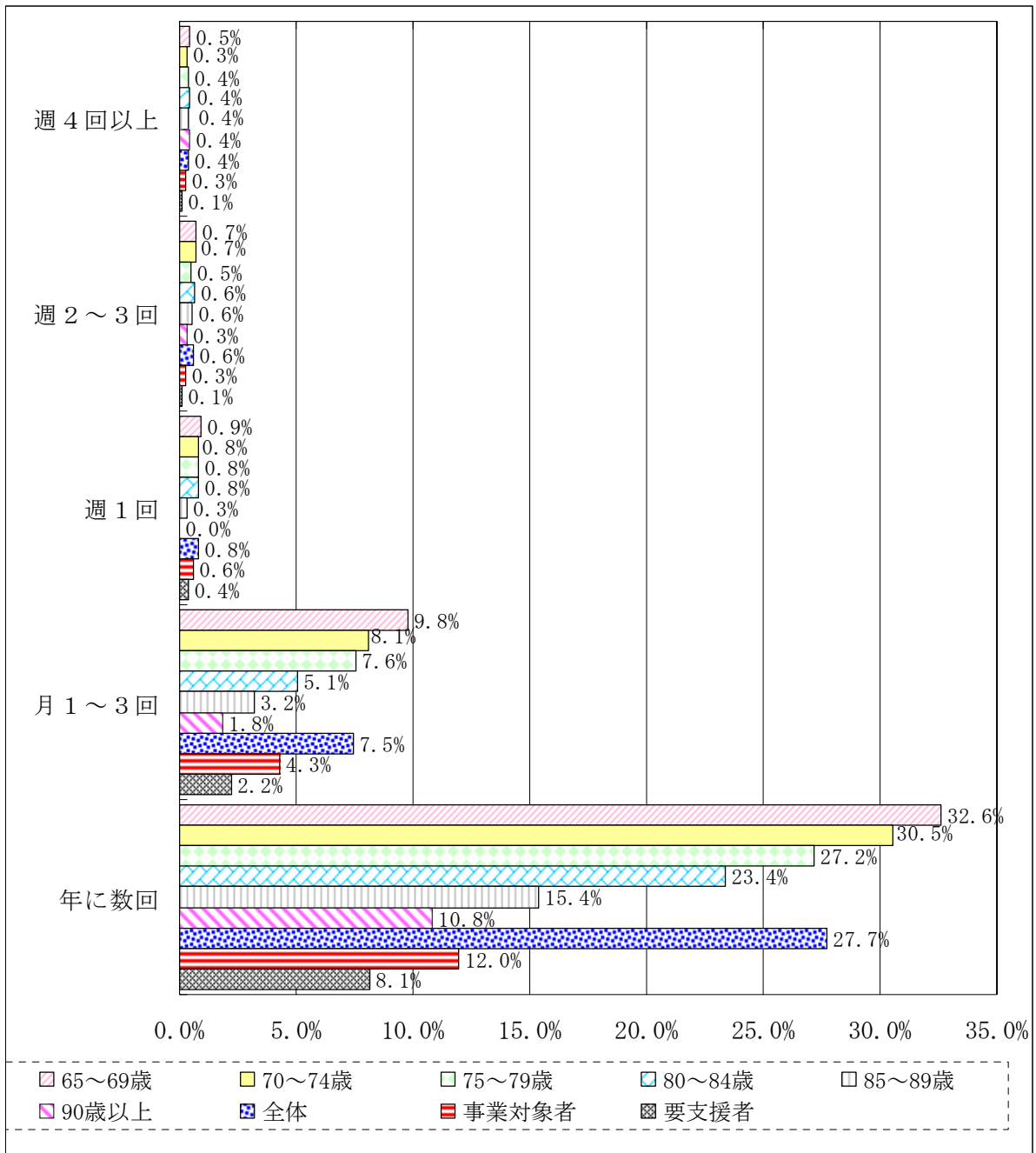
【図8：介護予防のための通いの場への参加頻度】



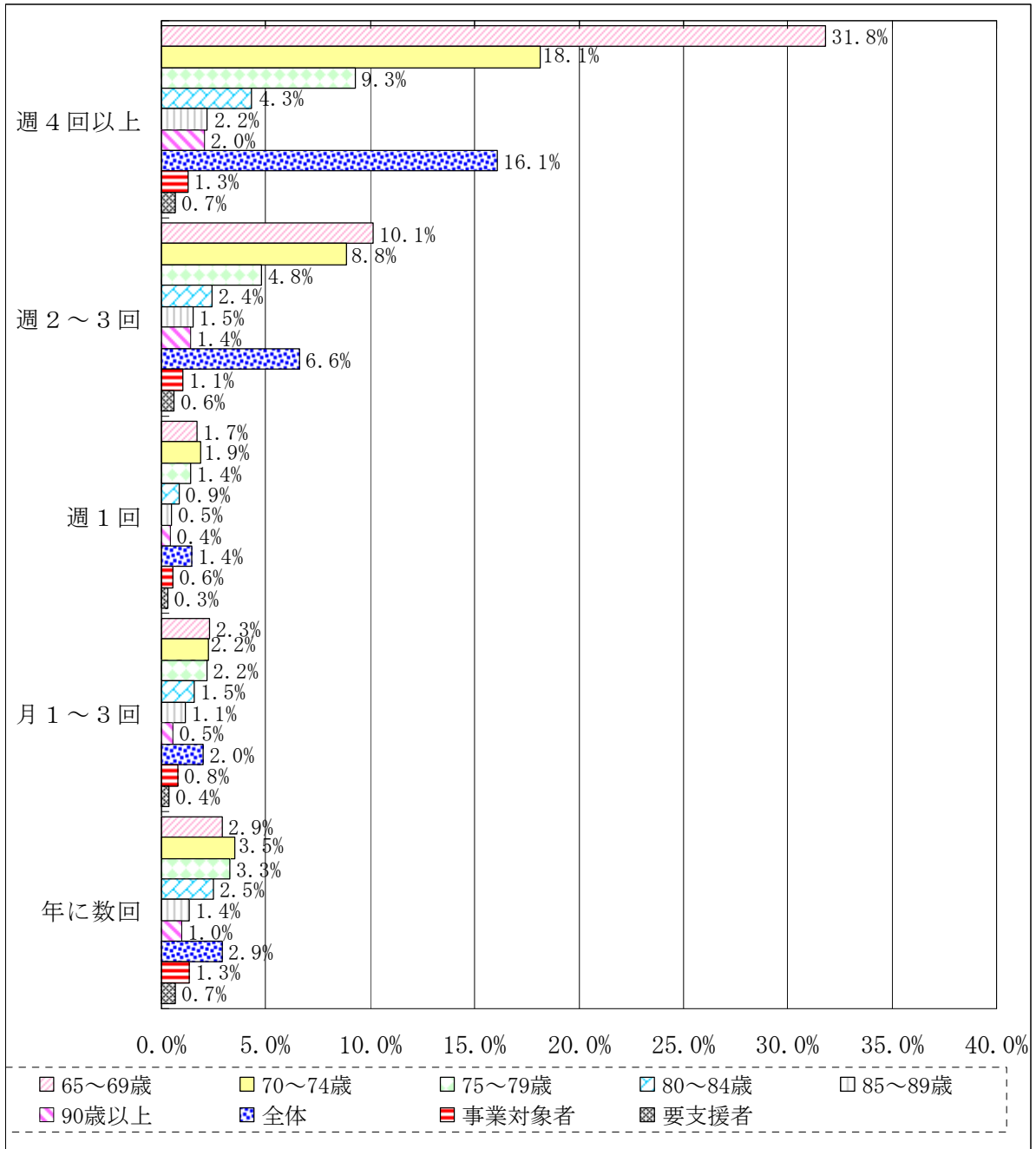
【図9：シニアクラブ・老人クラブへの参加頻度】



【図 10：町内会・自治会への参加頻度】



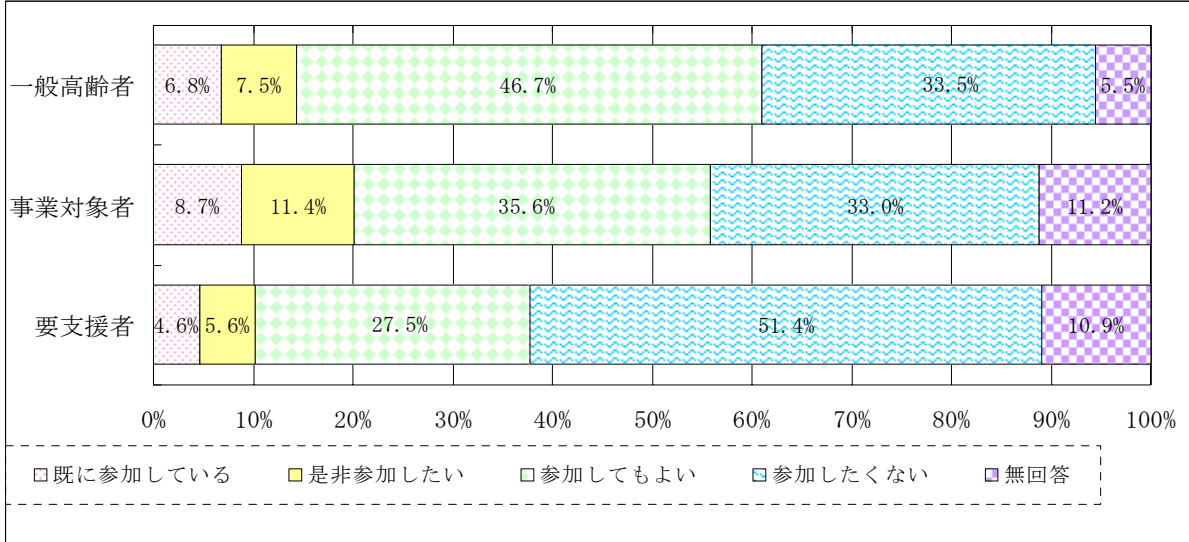
【図 11：収入のある仕事への参加頻度】



② 地域住民主体の活動への参加の意向

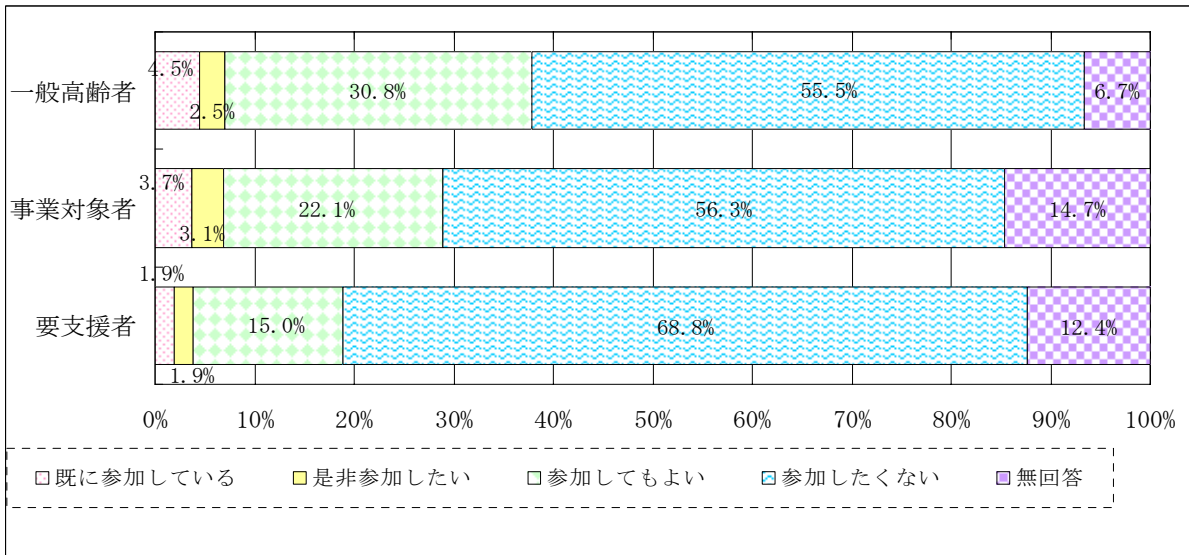
ア) 参加者としての参加

地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に「参加者」として参加の意向を示した（既に参加している、ぜひ参加したい、参加してもよい）割合は、一般高齢者では約6割、事業対象者では約6割、要支援者では約4割となっている。



イ) 企画・運営（お世話役）としての参加

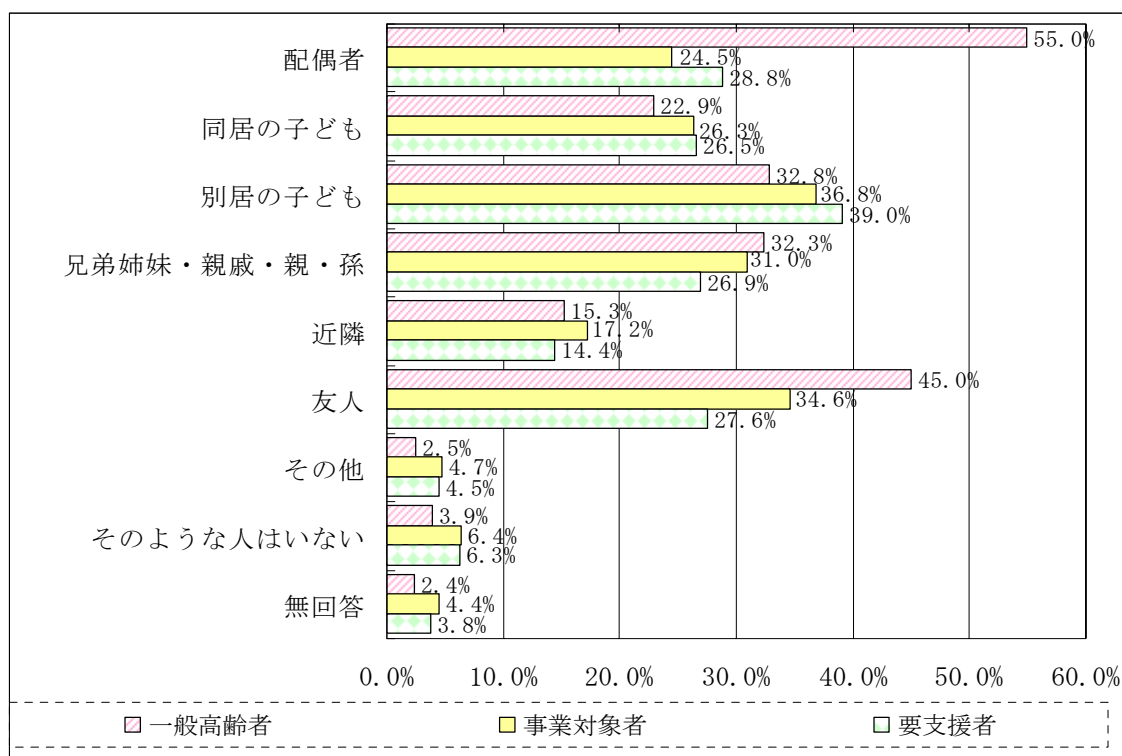
地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に「企画・運営（お世話役）」として参加の意向を示した（既に参加している、是非参加したい、参加してもよい）割合は、一般高齢者では約4割、事業対象者では約3割、要支援者では約2割でなっている。



(5) たすけあいについて

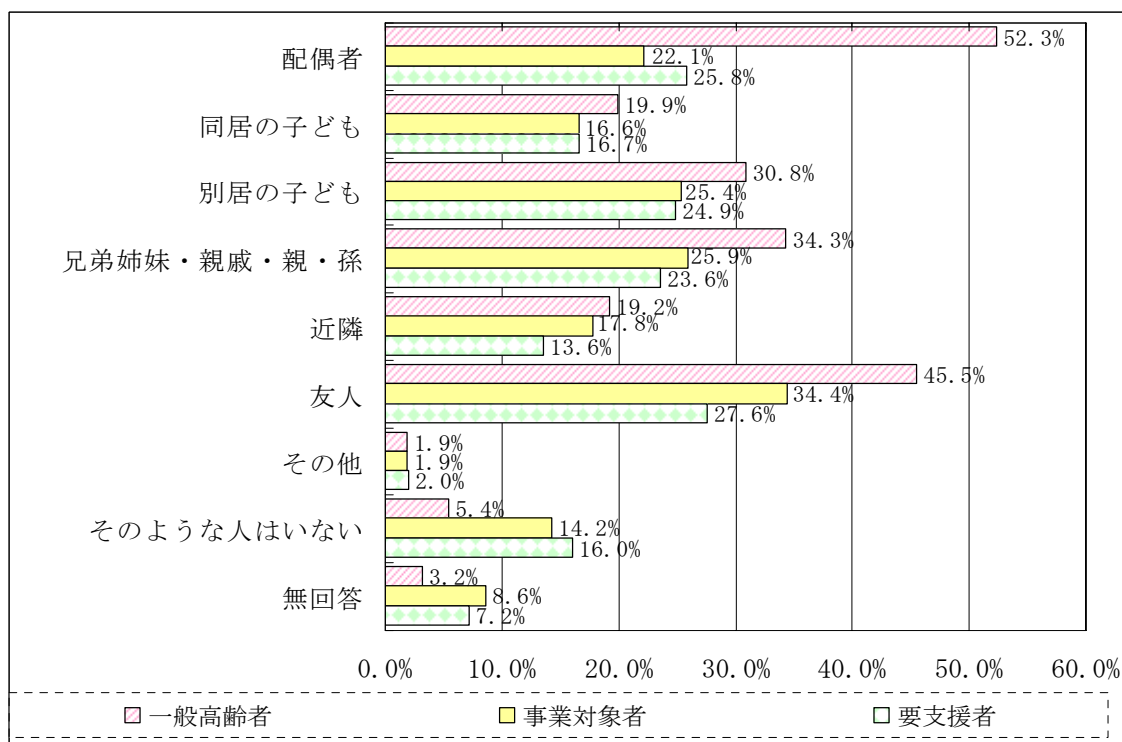
① 心配事や愚痴を聞いてくれる人について（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてくれる相手としては、一般高齢者では配偶者が約6割と一番高く、事業対象者、要支援者では共に別居の子どもが一番高く約4割なっている。



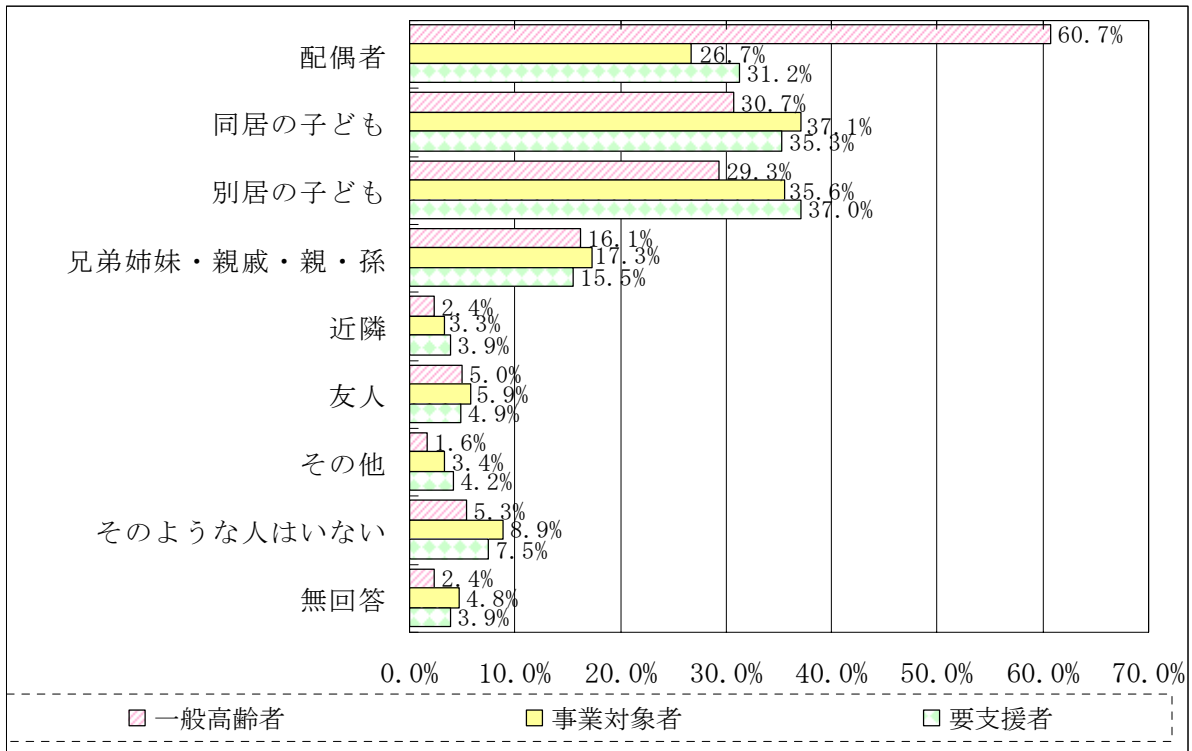
② 心配事や愚痴を聞いてあげる人について（複数回答）

心配事や愚痴を聞いてあげる相手としては、一般高齢者では配偶者が一番高く約5割となっており、事業対象者、要支援者では共に友人が一番高く約3割となっている。



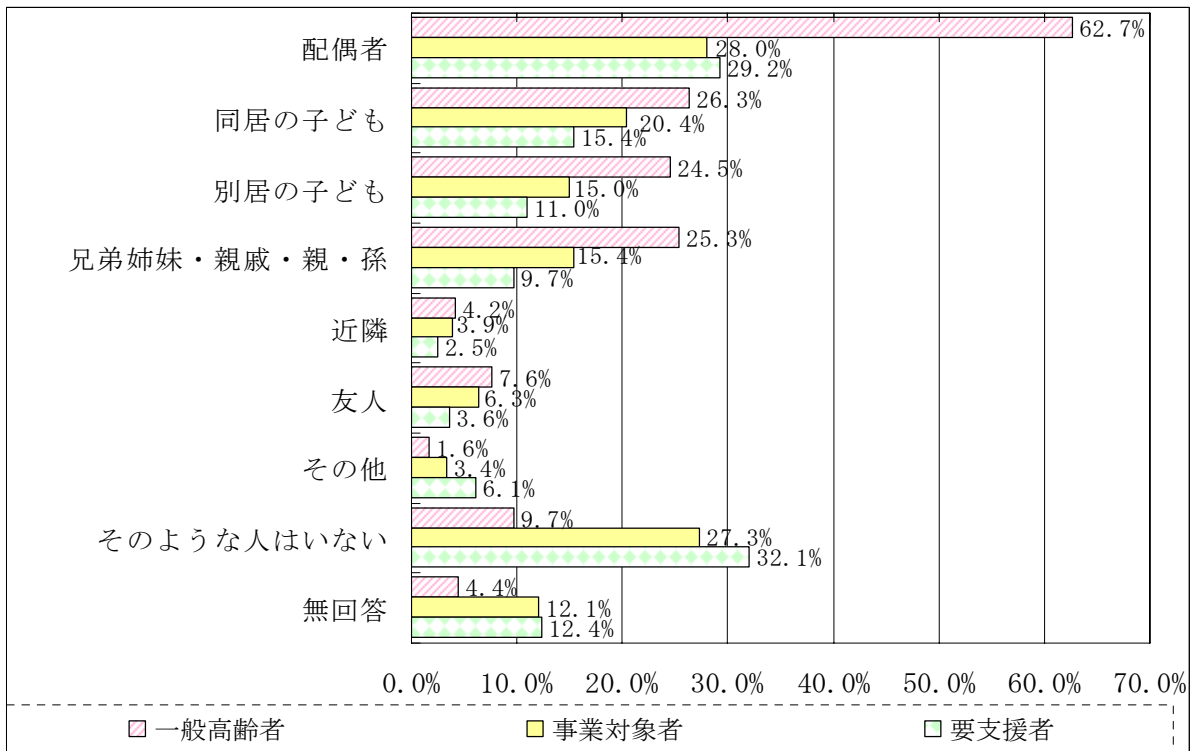
③ 看病や世話をしてくれる人について（複数回答）

看病や世話をしてくれる相手としては、一般高齢者では配偶者が一番高く、約6割となっており、事業対象者では同居の子ども、要支援者では別居の子どもが最も高く、それぞれ4割となっている。



④ 看病や世話をしてあげる人について（複数回答）

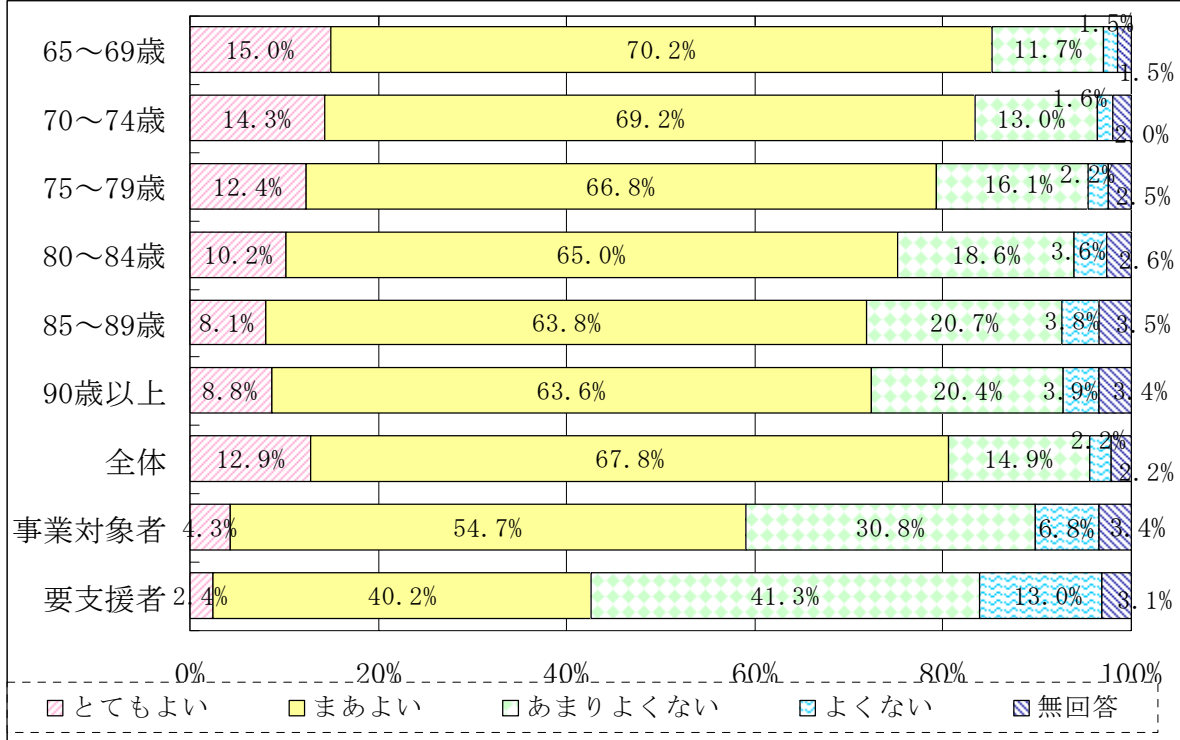
看病や世話をしてあげる相手としては、一般高齢者と事業対象者では配偶者が最も高くそれぞれ約6割と約3割、要支援者ではそのような人はいないが最も高く約3割となっている。



(7) 健康について

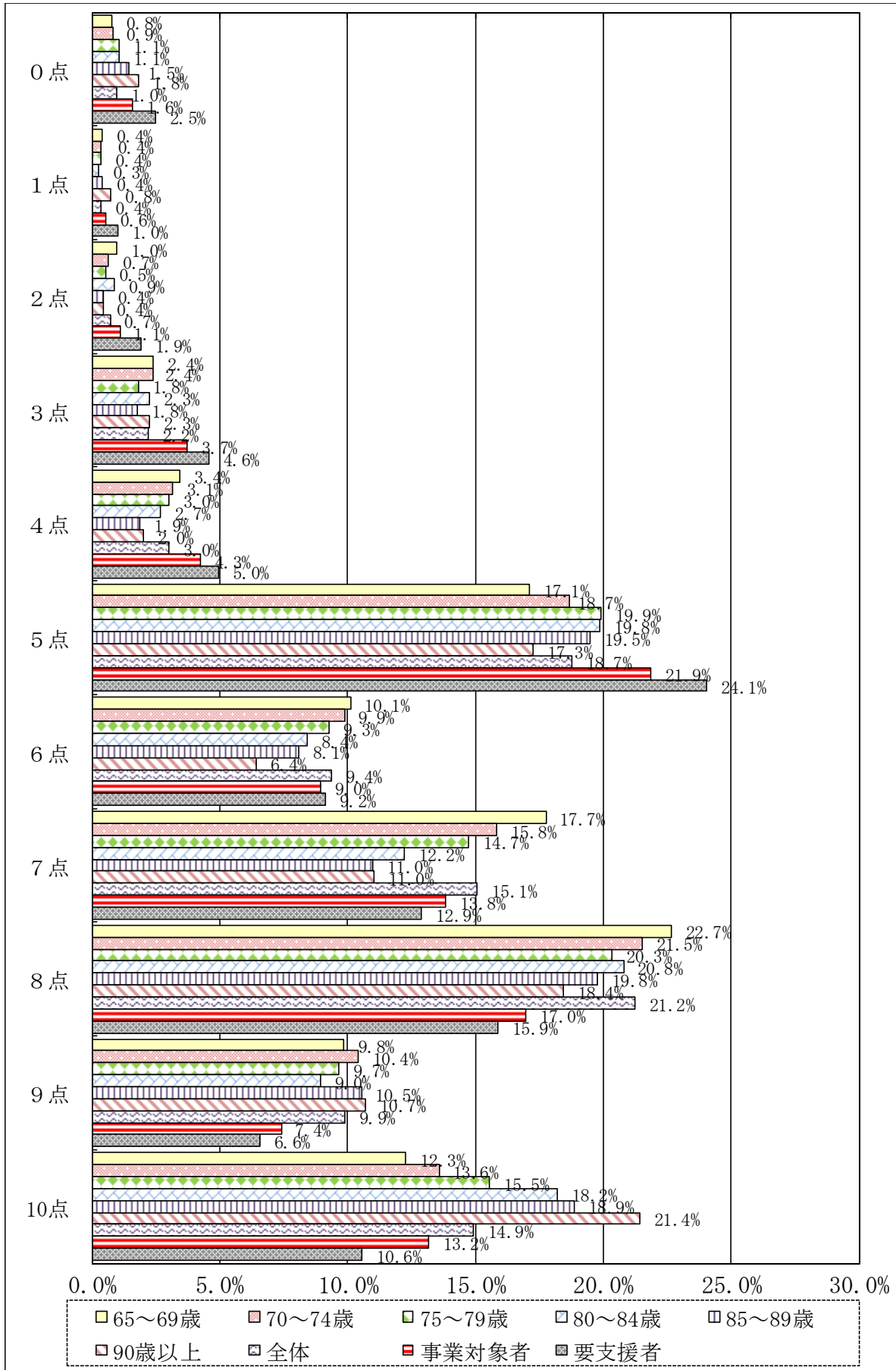
① 現在の健康状態について

現在の健康状態について、よい（とてもよい、まあよい）と回答した割合は、一般高齢者の85歳未満では8割前後となっているのに対し、85歳以上では約7割となっている。また、事業対象者では約6割、要支援者では約4割となっている。



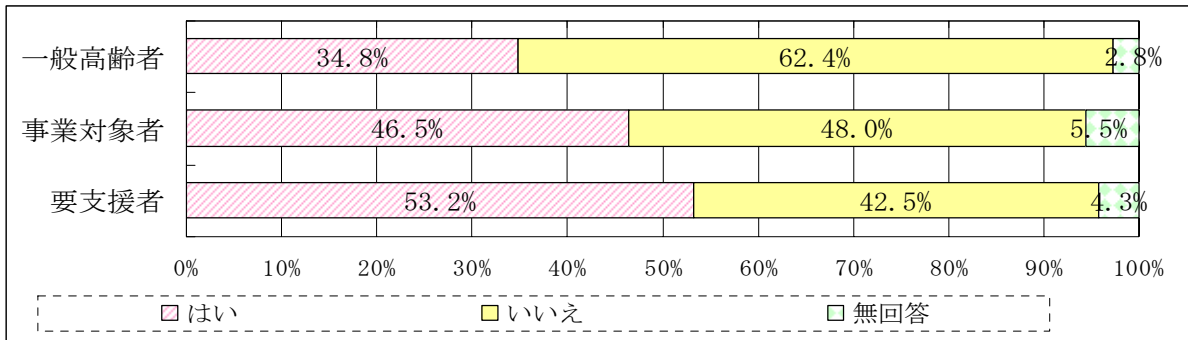
② 現在の幸福度について

現在の幸福度について普通（5点）以上と回答した割合は、一般高齢者では全ての年齢階級で約9割となっており、事業対象者、要支援者では約8割となっている。



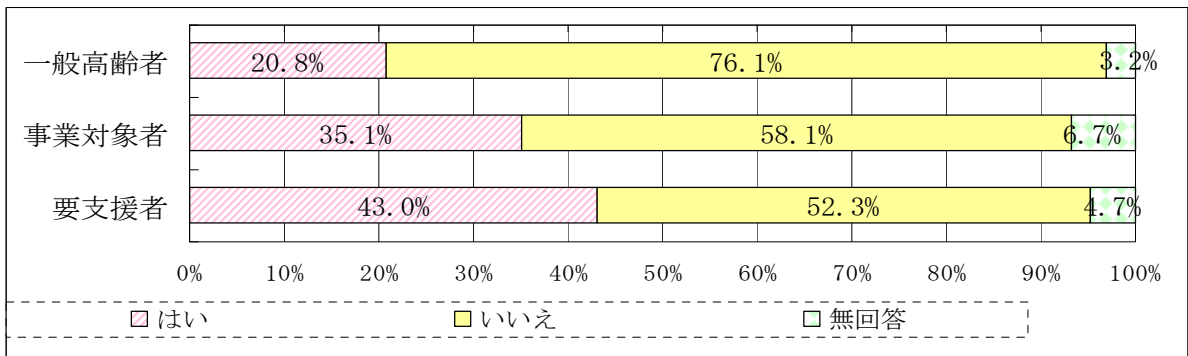
③ この1カ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったか

この1カ月間に気分が沈んだりゆううつな気持ちなったりすることがあった割合は一般高齢者では約3割、事業対象者、要支援者共に約5割となっている。



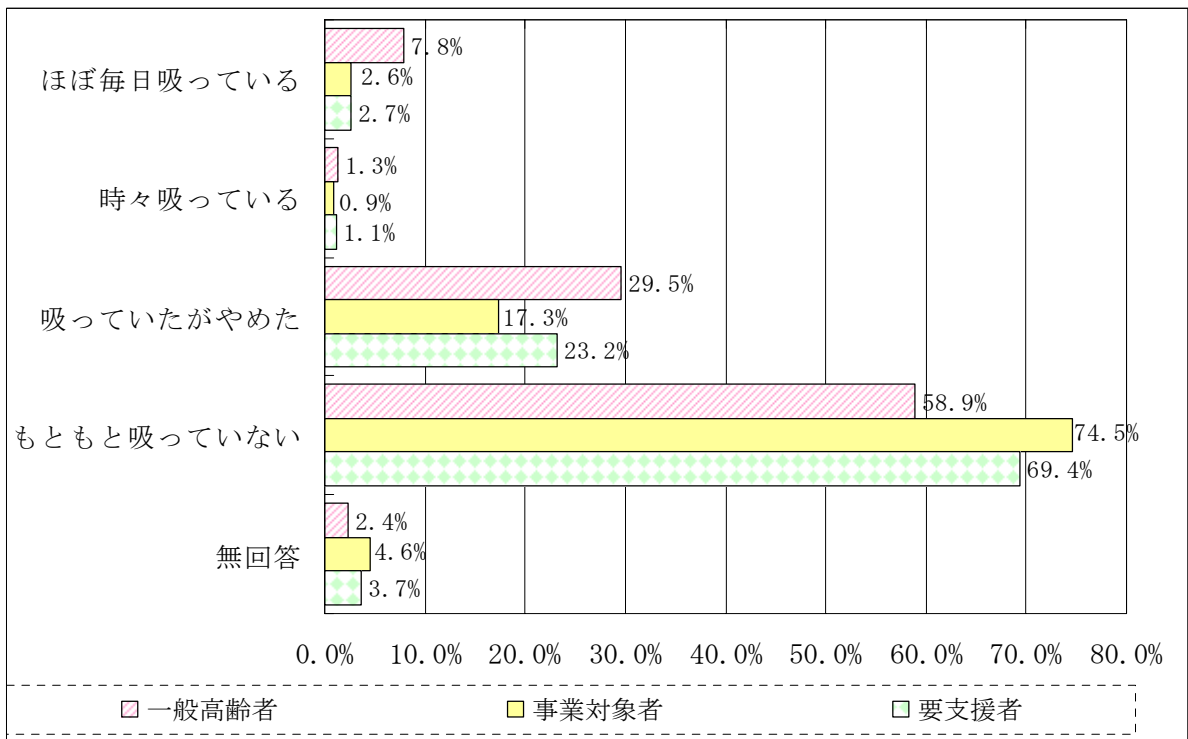
④ この1カ月間、物事に対して興味がわかない、楽しめないことがあったか

この1カ月間に物事に対して興味がわかない、楽しめないことが合った割合は一般高齢者では約2割、事業対象者、要支援者共に約4割となっている。



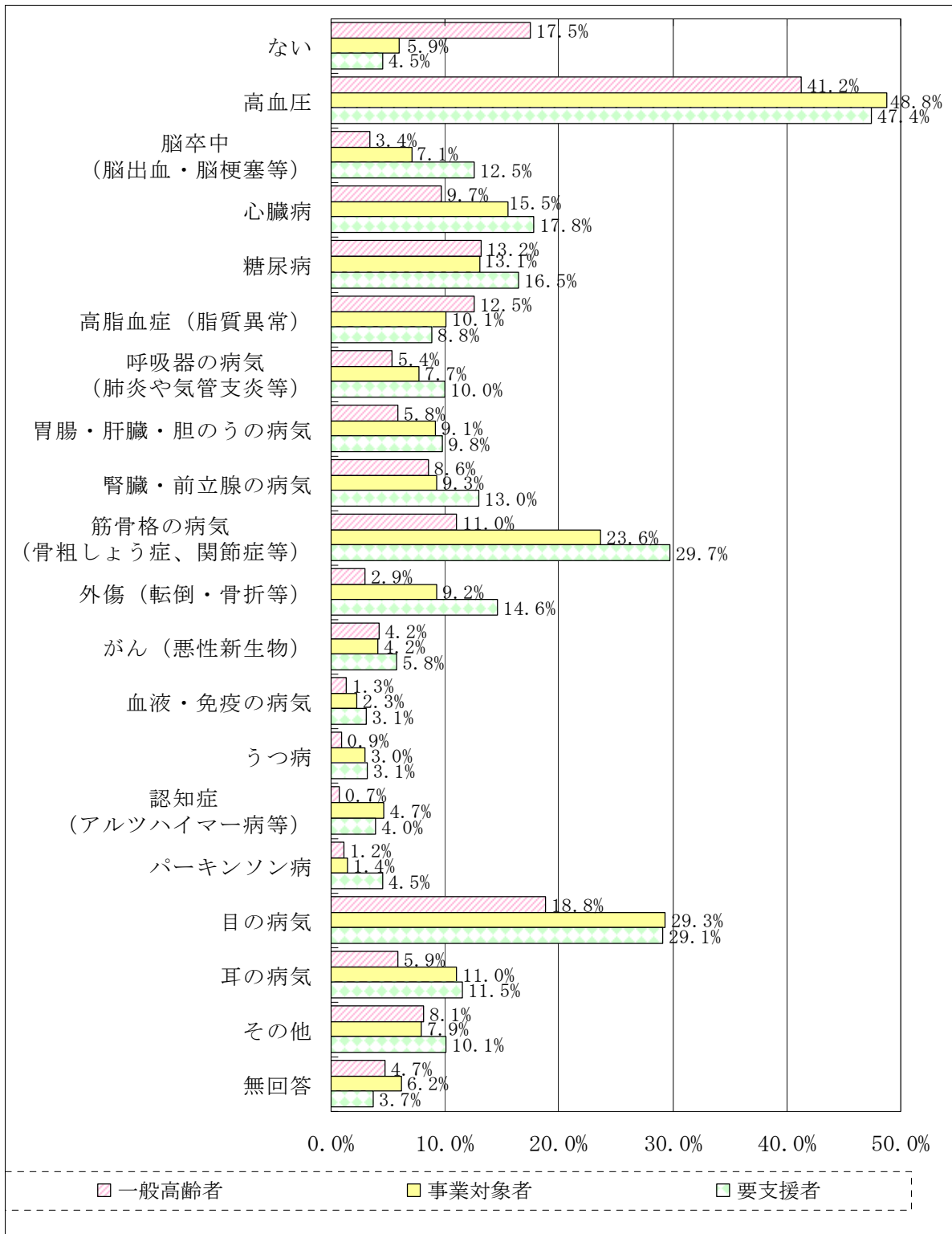
⑤ タバコを吸っているか

タバコを吸っている（ほぼ毎日吸っている、時々吸っている）割合は一般高齢者、事業対象者、要支援者共に1割を下回っている。



⑥ 現在治療中、または後遺症のある病気について（複数回答）

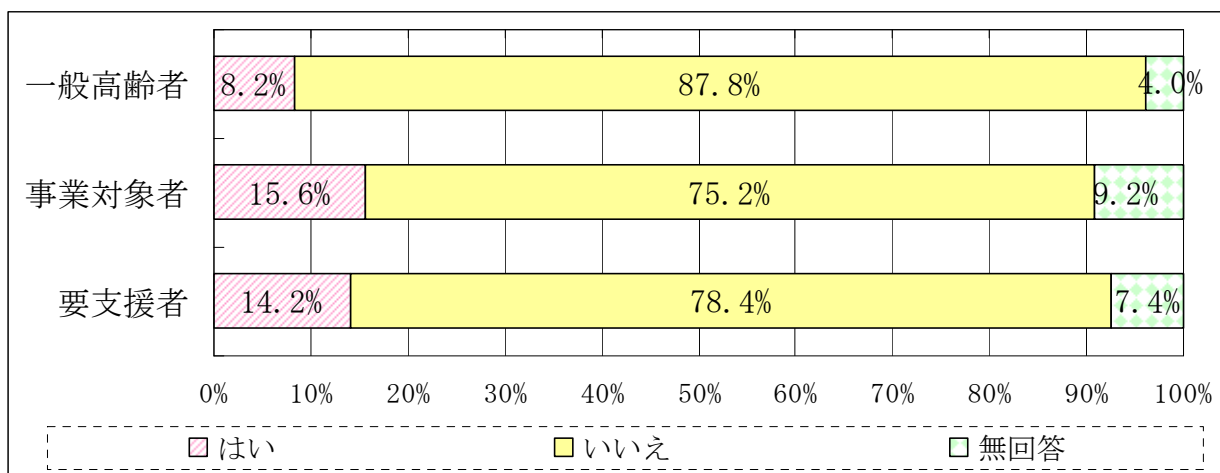
現在治療中、または後遺症のある病気としては、高血圧の割合が一番高く、一般高齢者では約4割、事業対象者、要支援者では約5割となっている。



(8) 認知症について

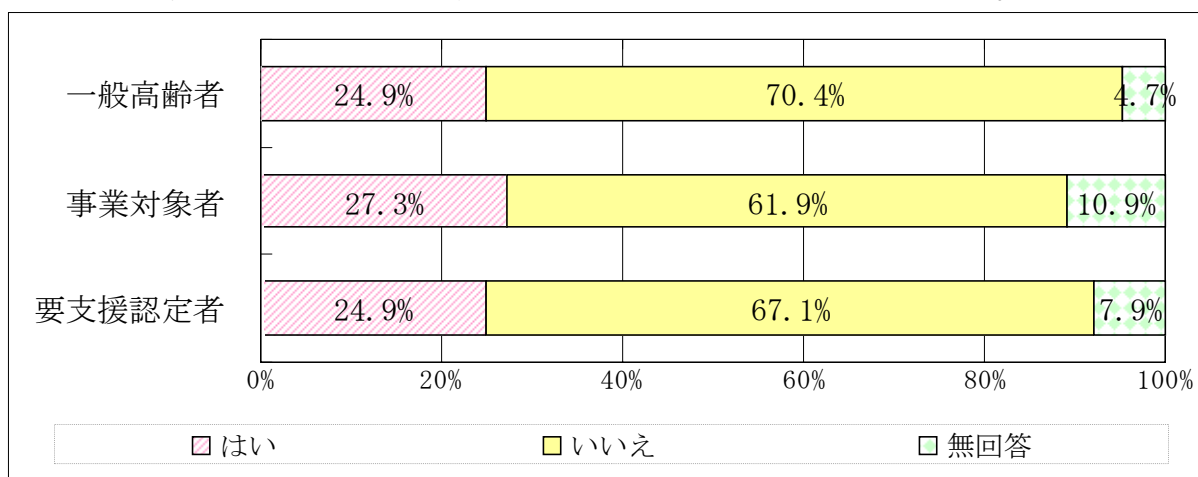
① 本人、または家族の認知症の症状について

調査対象者の認知症の症状については、あると回答した割合は、一般高齢者、要支援者では共に約1割、事業対象者では約2割となっている。



② 認知症の相談窓口について

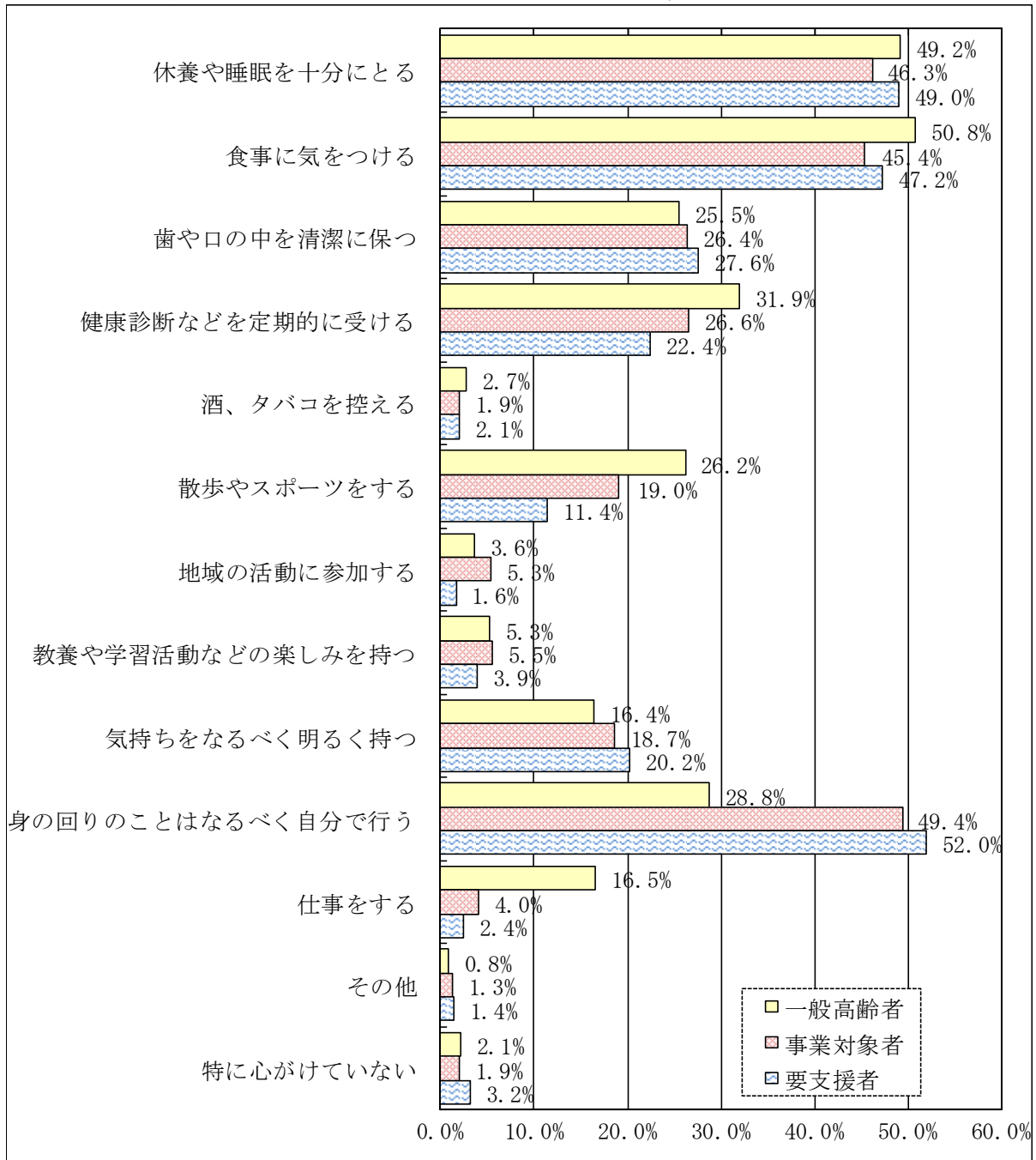
認知症の相談窓口については、知っている割合は、一般高齢者、要支援者では共に約2割、事業対象者では約3割となっている。



(9) 健康への取組・関心等について

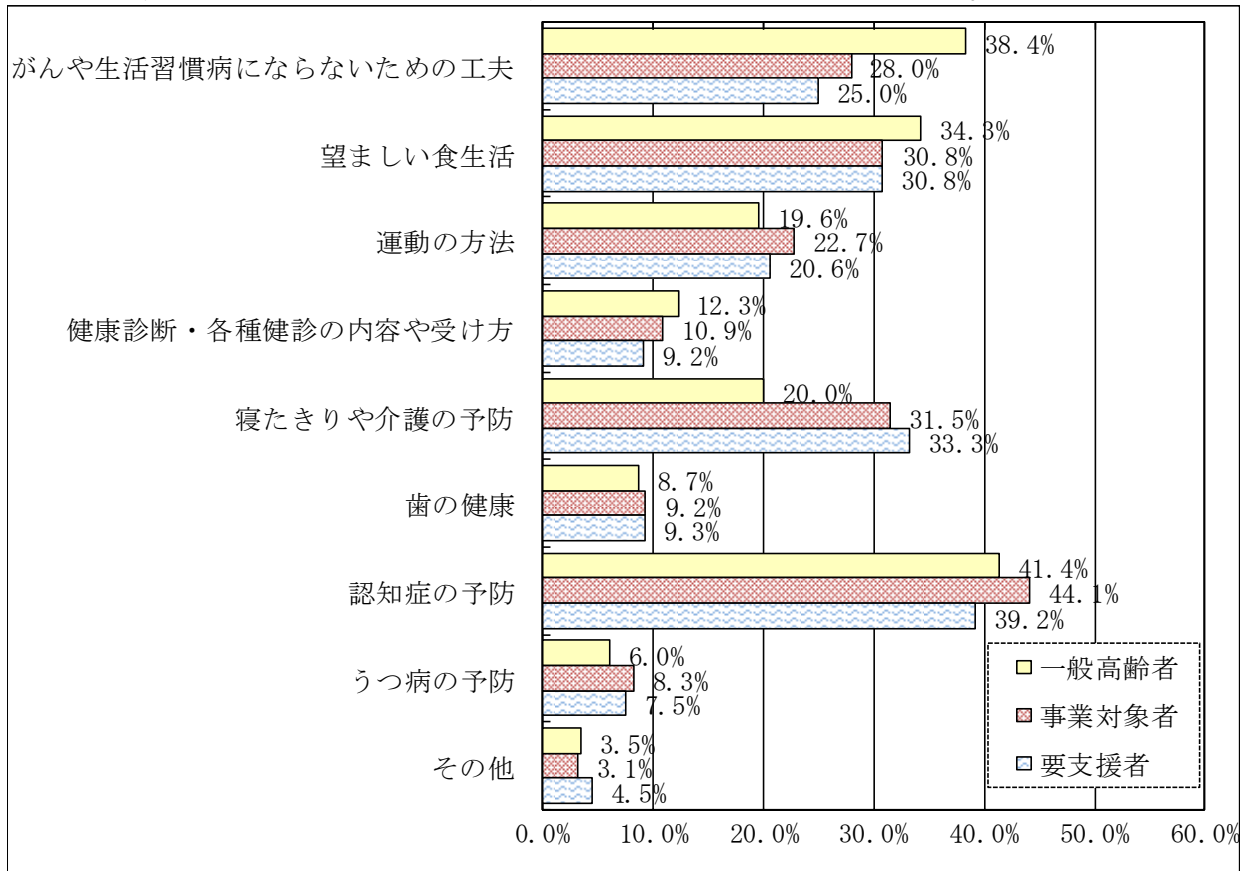
① 健康のために心がけていること（複数回答）

健康のために心がけていることは、一般高齢者では食事に気をつけるが一番高く約5割となっており、事業対象者、要支援者では、身の回りのことはなるべく自分で行うが一番高く約5割となっている。



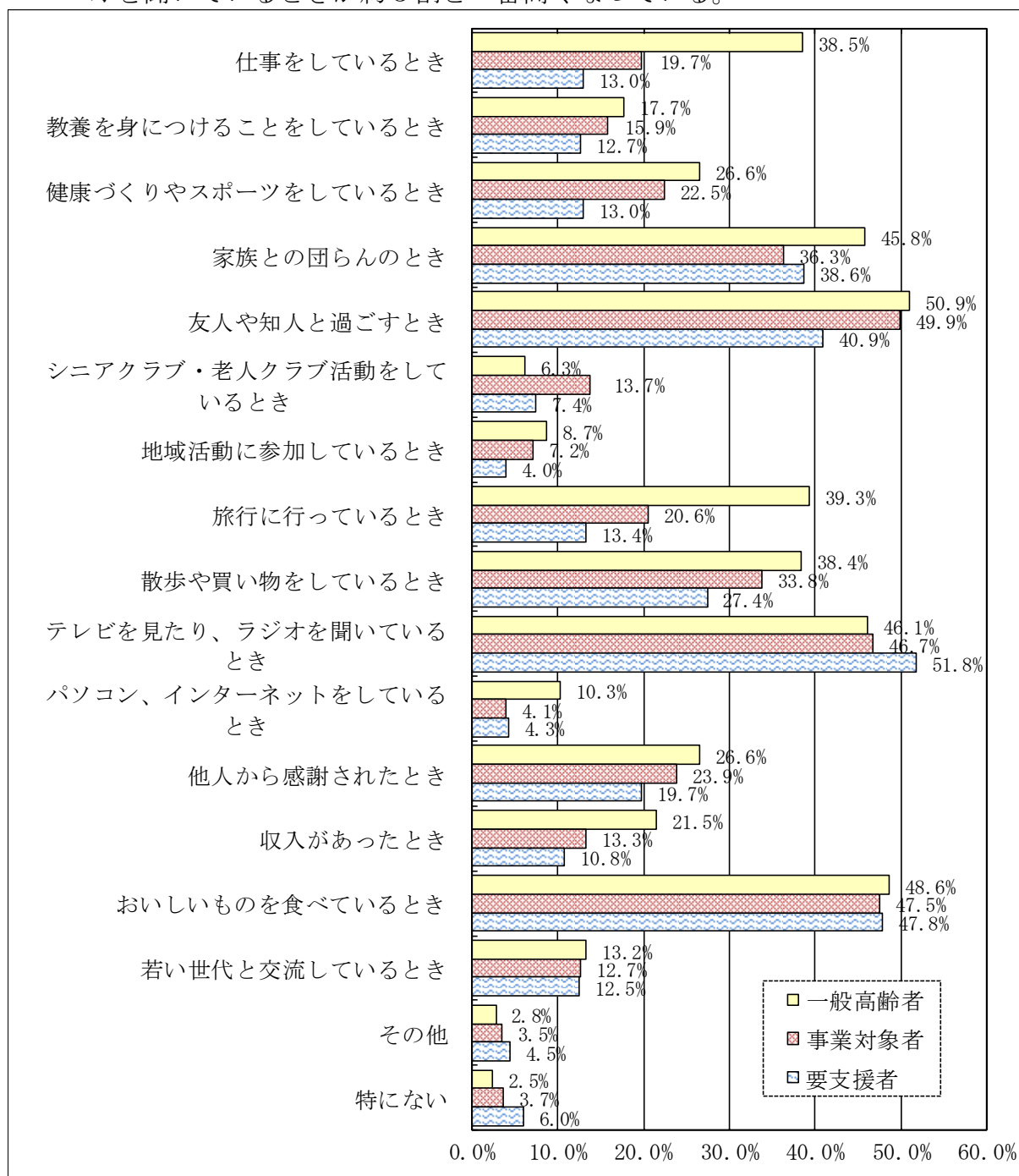
② 健康について知りたいこと（複数回答）

健康について知りたいことについては一般高齢者、事業対象者、要支援者共に、認知症の予防が一番高く約4割となっており、二番目に高いのは、一般高齢者では、がんや生活習慣病にならないための工夫で約4割、事業対象者、要支援者では共に寝たきりや介護の予防で約3割となっている。



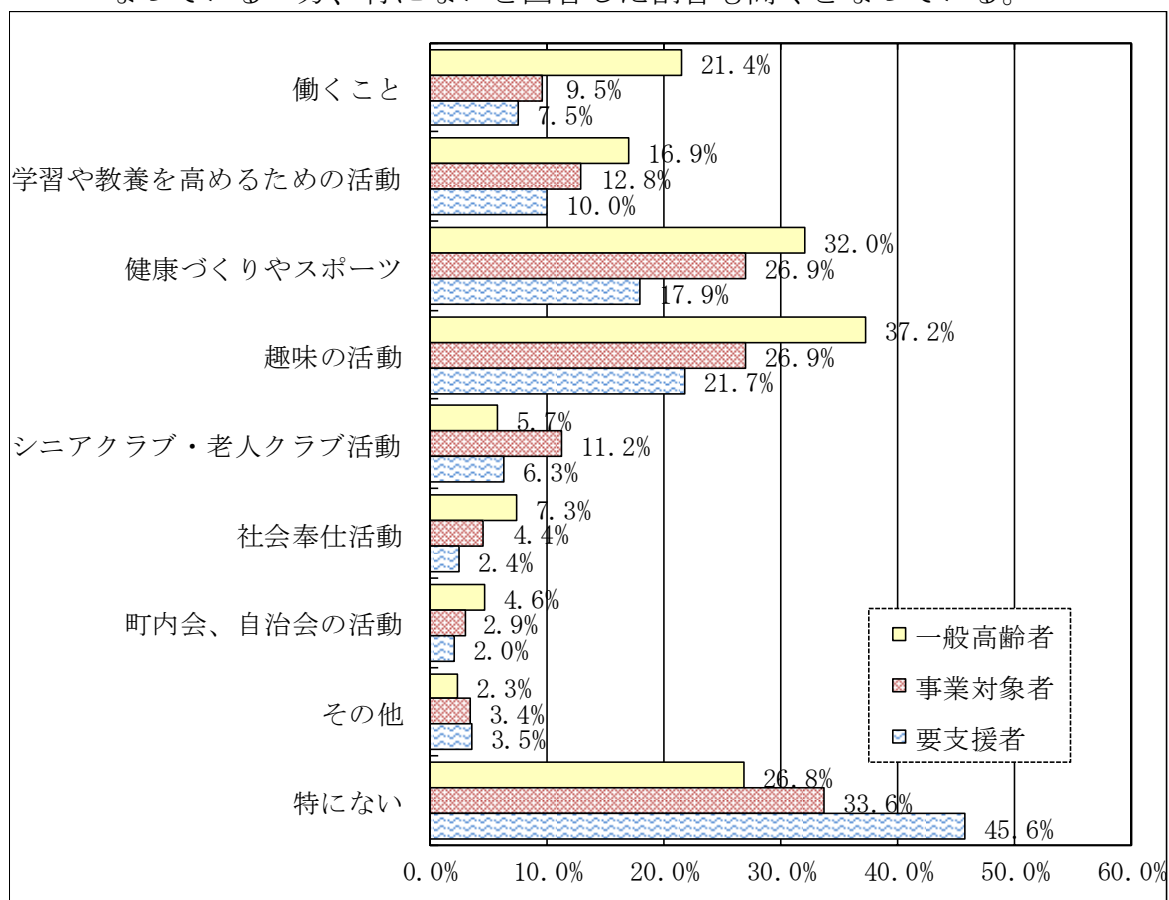
③ 生きがい(喜びや楽しみ)を感じる時(複数回答)

生きがいを感じる時は、一般高齢者、事業対象者では共に友人や知人と過ごすときが約5割と一番高くなっており、要支援者ではテレビを見たり、ラジオを聞いているときが約5割と一番高くなっている。



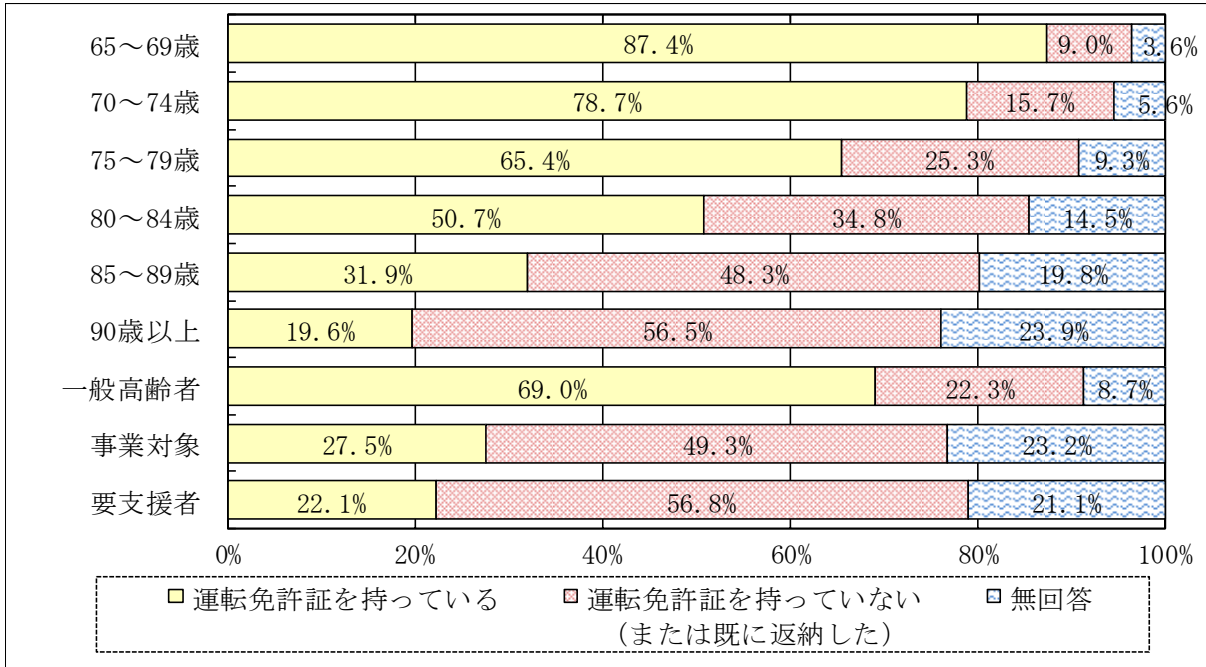
④ 今後やってみたいもの（複数回答）

今後やってみたいものは、一般高齢者、事業対象者、要支援者共に趣味の活動が一番高く、一般高齢者が約4割、事業対象者が3割、要支援者が約2割となっている一方、特にないと回答した割合も高くとなっている。



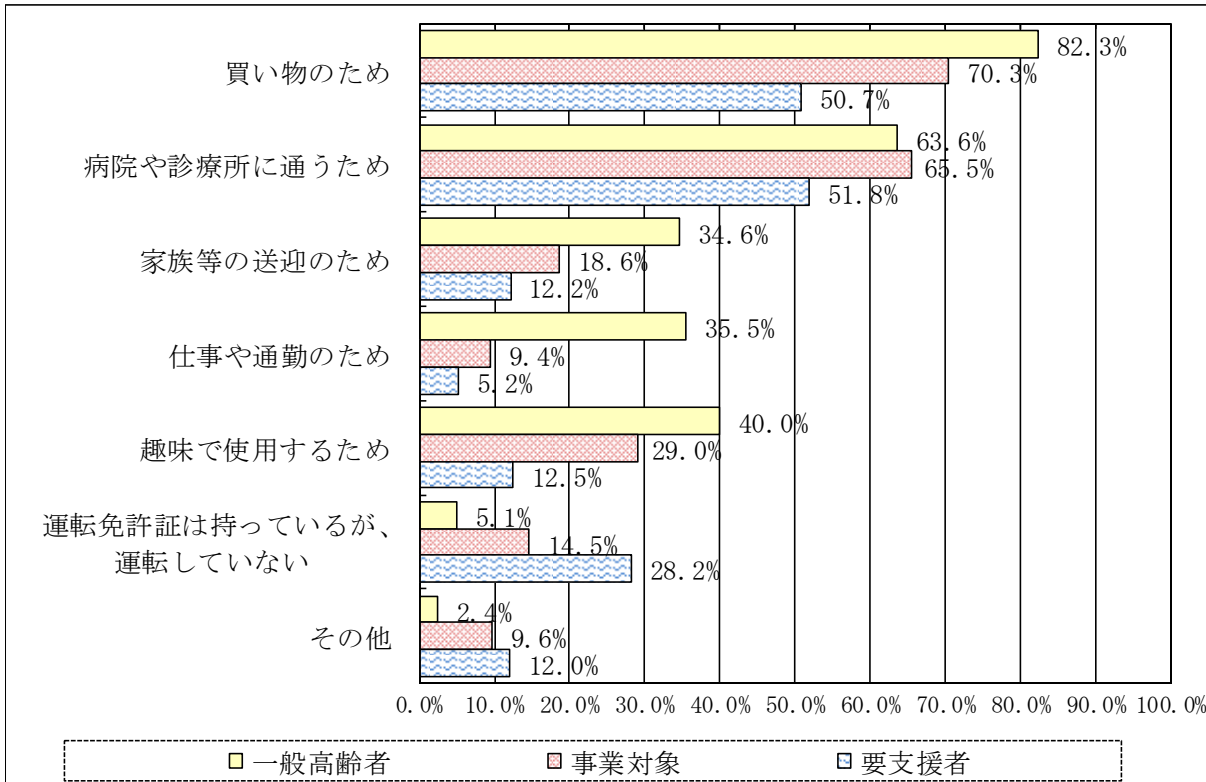
⑤ 自動車の運転免許の所持状況について

自動車の運転免許の所持状況については、一般高齢者では約7割が運転免許証は持っているという回答した。一方、事業対象者、要支援者では、運転免許証は持っているという回答した割合は、事業対象者が約3割、要支援者が約2割となっている。また、一般高齢者では、運転免許証は持っていない（または既に返納した）割合は、年代が上がるにつれて増えている。



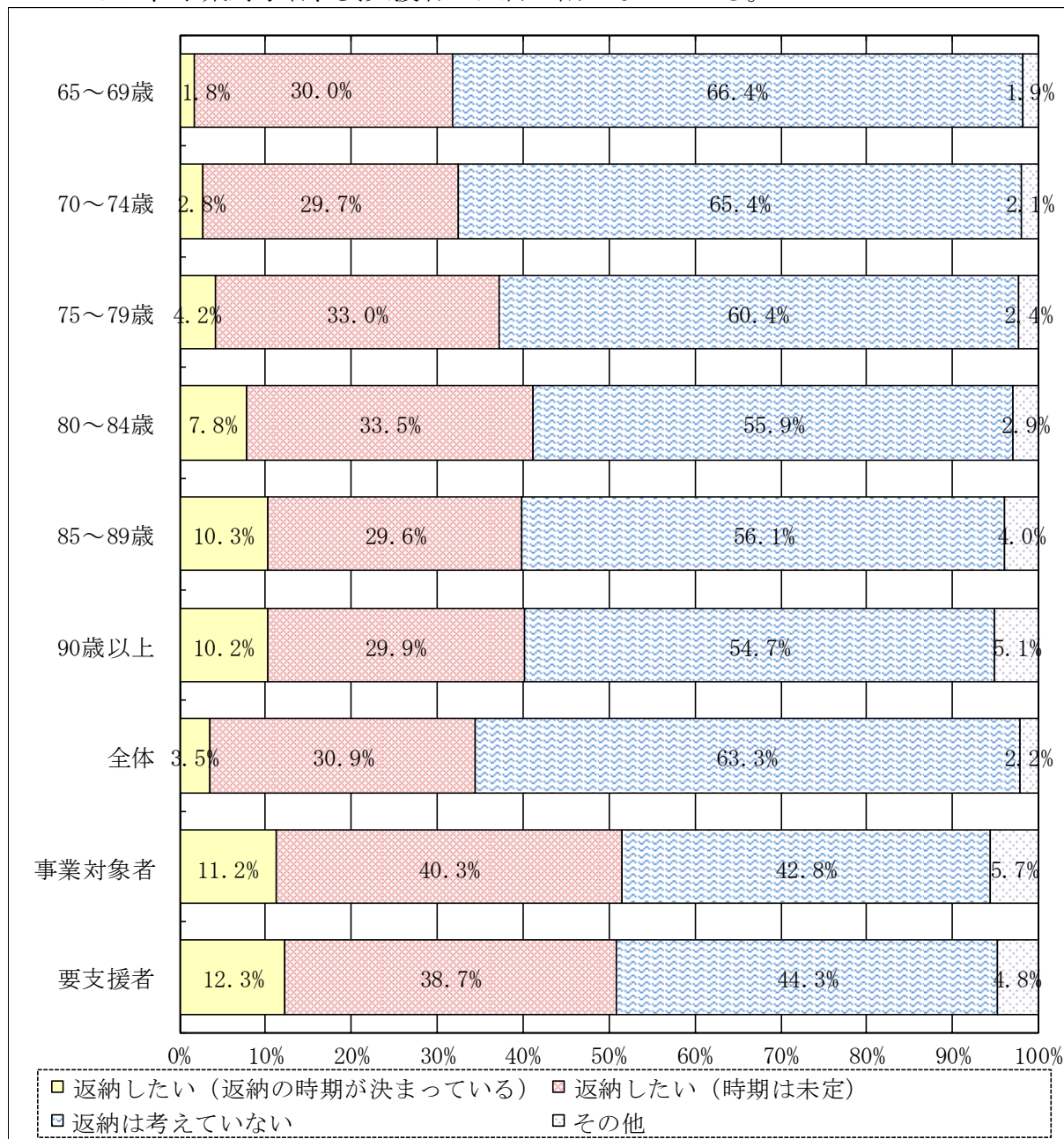
⑥ 自動車の運転目的について（複数回答）

自動車の運転目的については、⑤の質問に運転免許証を持っているという回答した人を対象に集計した。一般高齢者、事業対象者では共に買い物のためが一番高く、それぞれ約8割と約7割となっている。要支援者では、病院や診療所に通うためが一番高く、約5割となっている。



⑦ 運転免許の返納について

運転免許の返納については、返納を考えていないと回答した割合は、一般高齢者の60代では約3割であるのに対し、80歳以上では、約4割となっている。また、事業対象者、要支援者では約5割となっている。

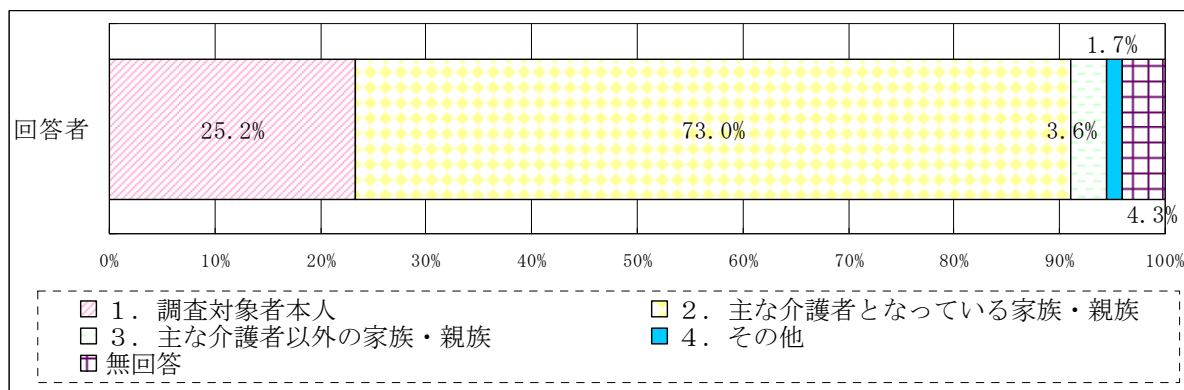


3 要介護者調査の結果

(1) 介護サービスの利用状況等

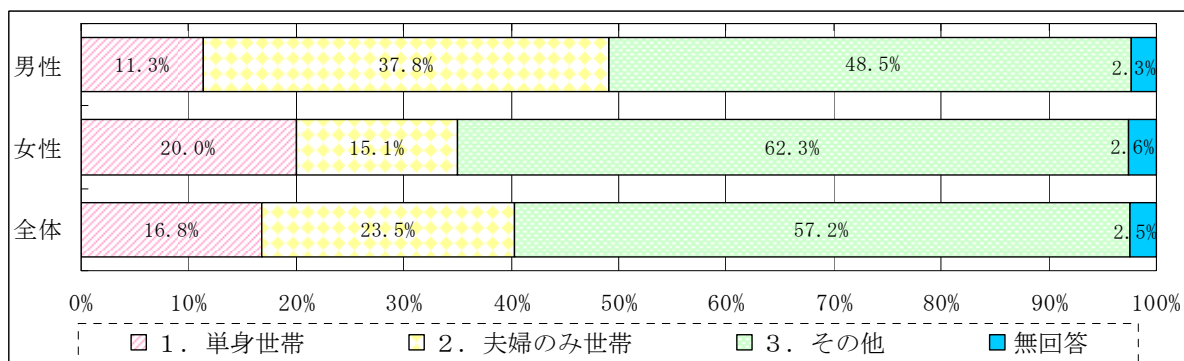
① 調査票の回答者について

調査票の回答については、主な介護者となっている家族・親族が回答した割合が一番高く、約7割となっている。



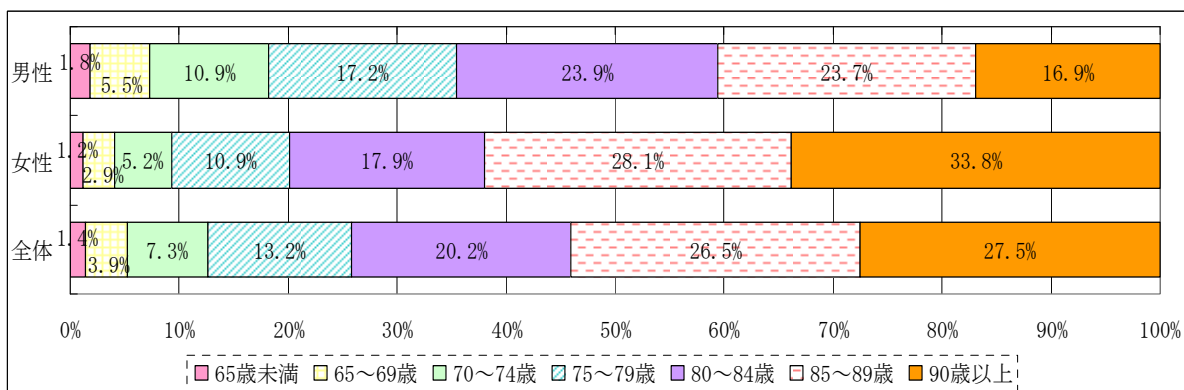
② 世帯類型について

男性、女性ともその他の世帯の割合が一番高く、男性は約5割、女性は約6割となっている。また、ひとり暮らし世帯の割合は、男性は約1割、女性は約2割となっている。



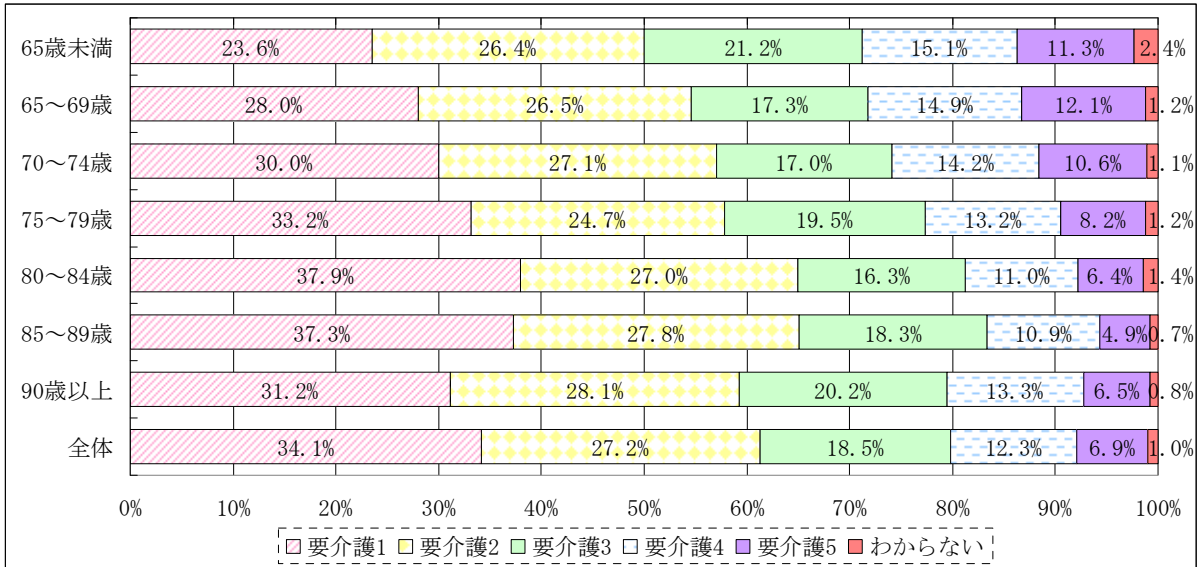
③ 本人の性別・年齢について

男性は80～84歳の割合が約2割、女性は90歳以上が約3割と一番高くなっている。



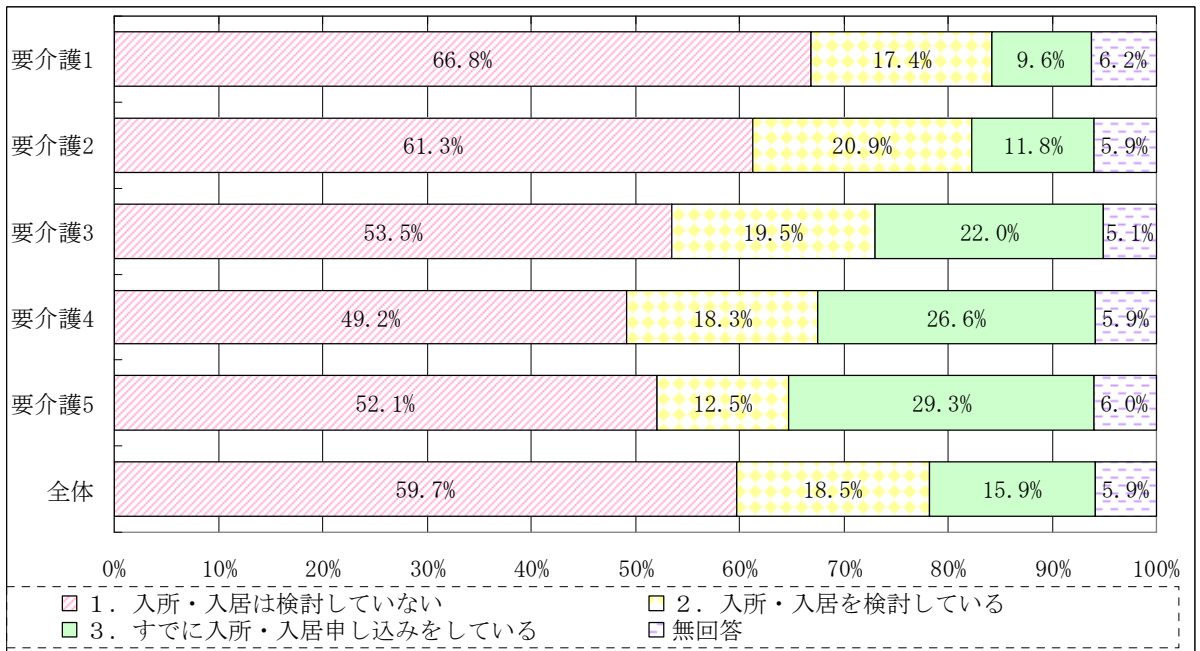
④ 本人の要介護度について

65歳未満以外の年齢階級では要介護1が一番多く、いずれの年齢階層でも要介護2以下が過半数を超えている。



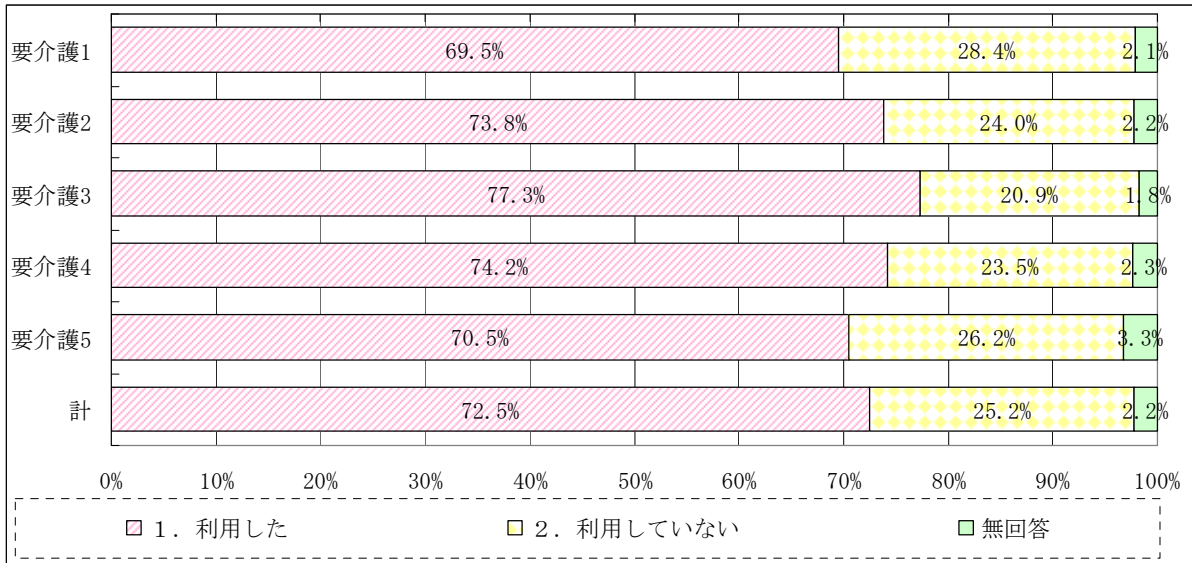
⑤ 現時点での、施設等の入所・入居の検討状況について

現時点で施設等の入所・入居を検討していない割合は要介護1で約7割であるのに対し、要介護3以上では約5割となっている。



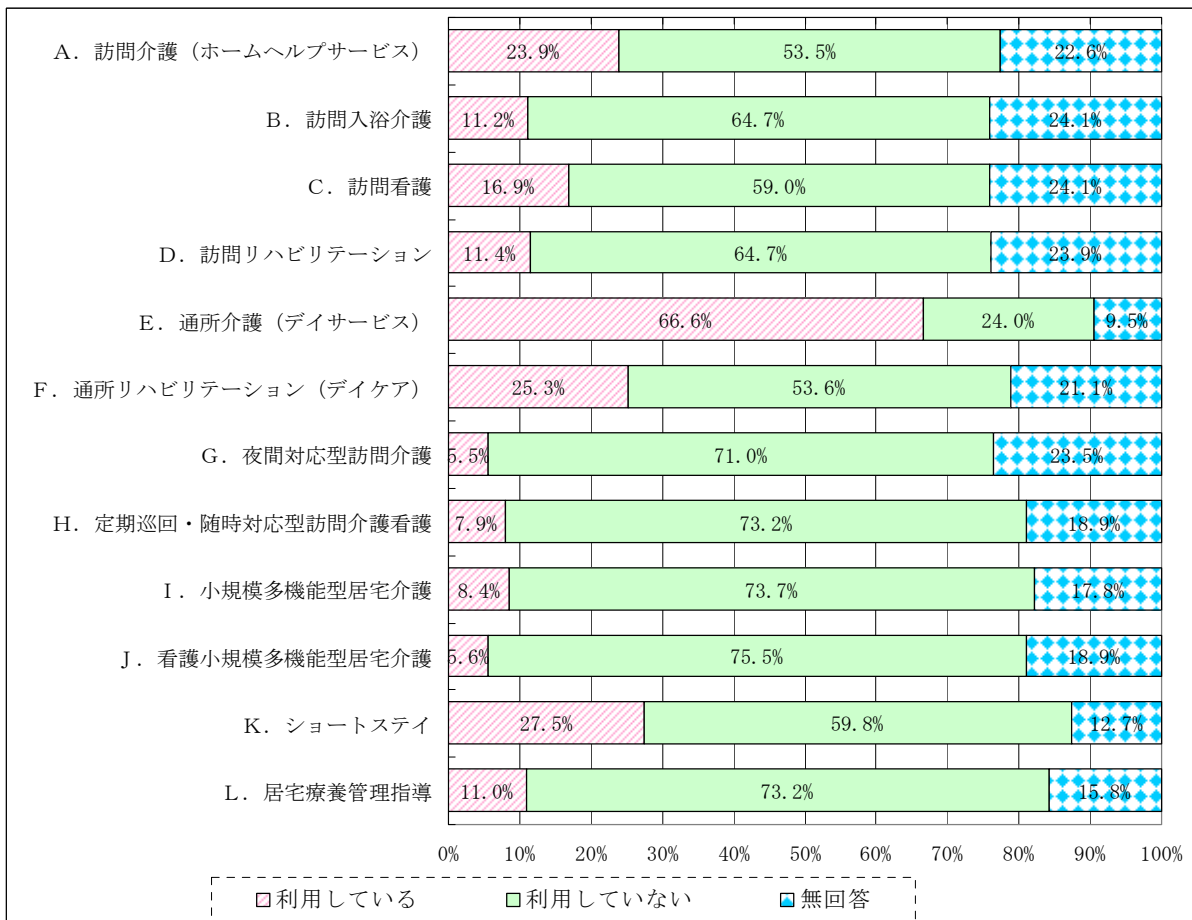
⑥ 介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入を除く）の利用状況

この1か月間に介護保険サービスを利用した割合は、要介護度に関わらず7割前後となっている。



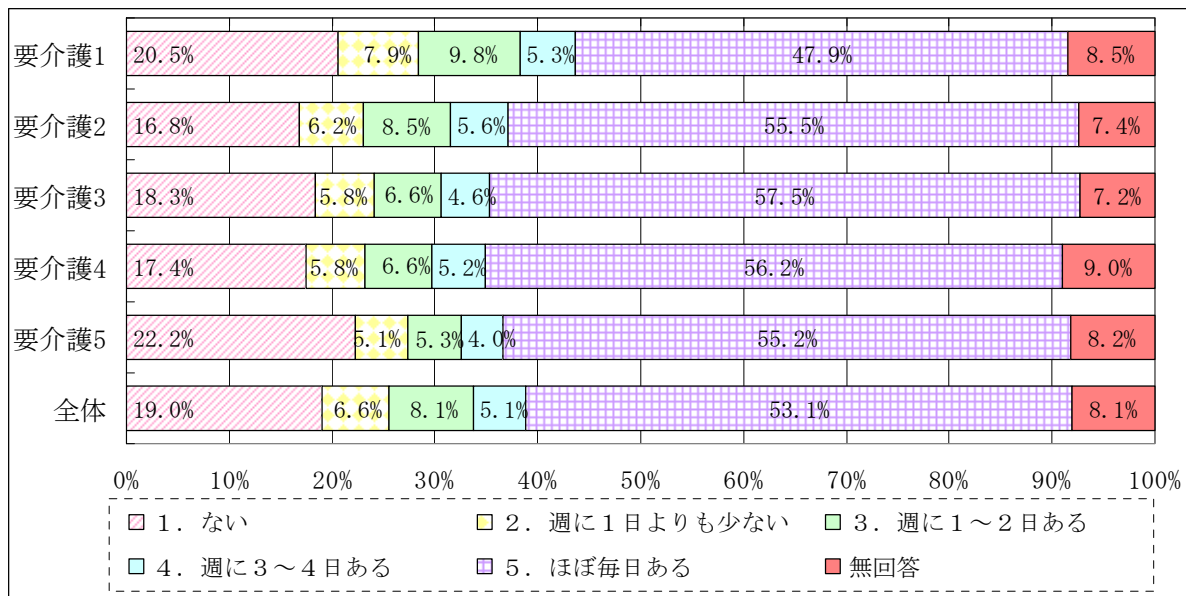
⑦ 介護保険サービス種別の利用状況

介護サービス種別の利用状況は、通所介護（デイサービス）を利用している割合が約7割と一番高くなっている。一方、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護など地域密着型サービスの利用状況はいずれも1割に達していない。



⑧ 家族や親族からの介護の状況について

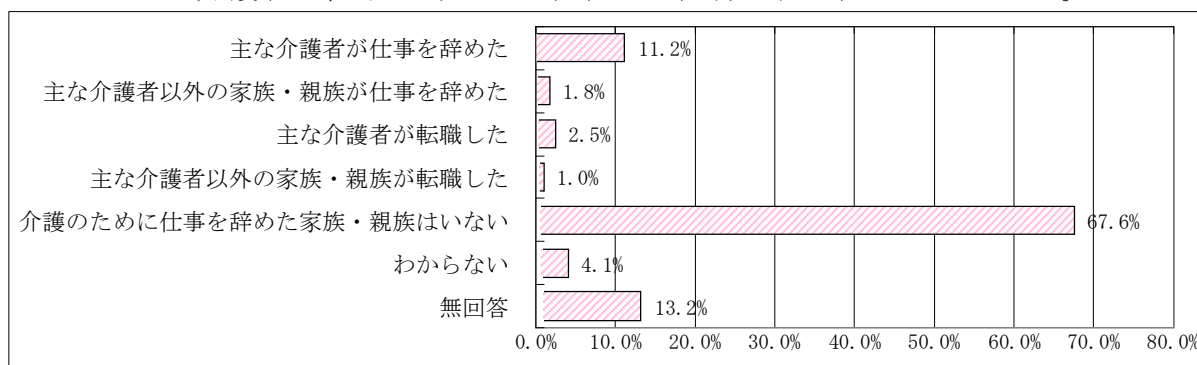
いずれの介護度においても家族や親族からの介護がほぼ毎日あると回答した割合が一番高く、5割前後となっている。一方、家族や親族からの介護がないと回答した割合は、いずれの介護度においても2割前後となっている。



(2) 主な介護者の状況等

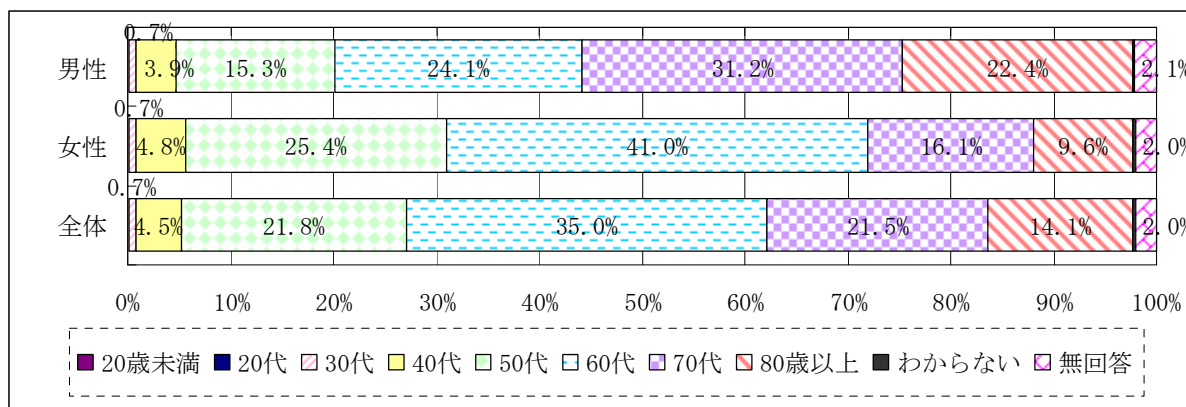
① 過去1年間の主な介護者の就業状態の変化について（複数回答）

主な介護者が仕事を辞めたり転職した割合が約1割となっている。



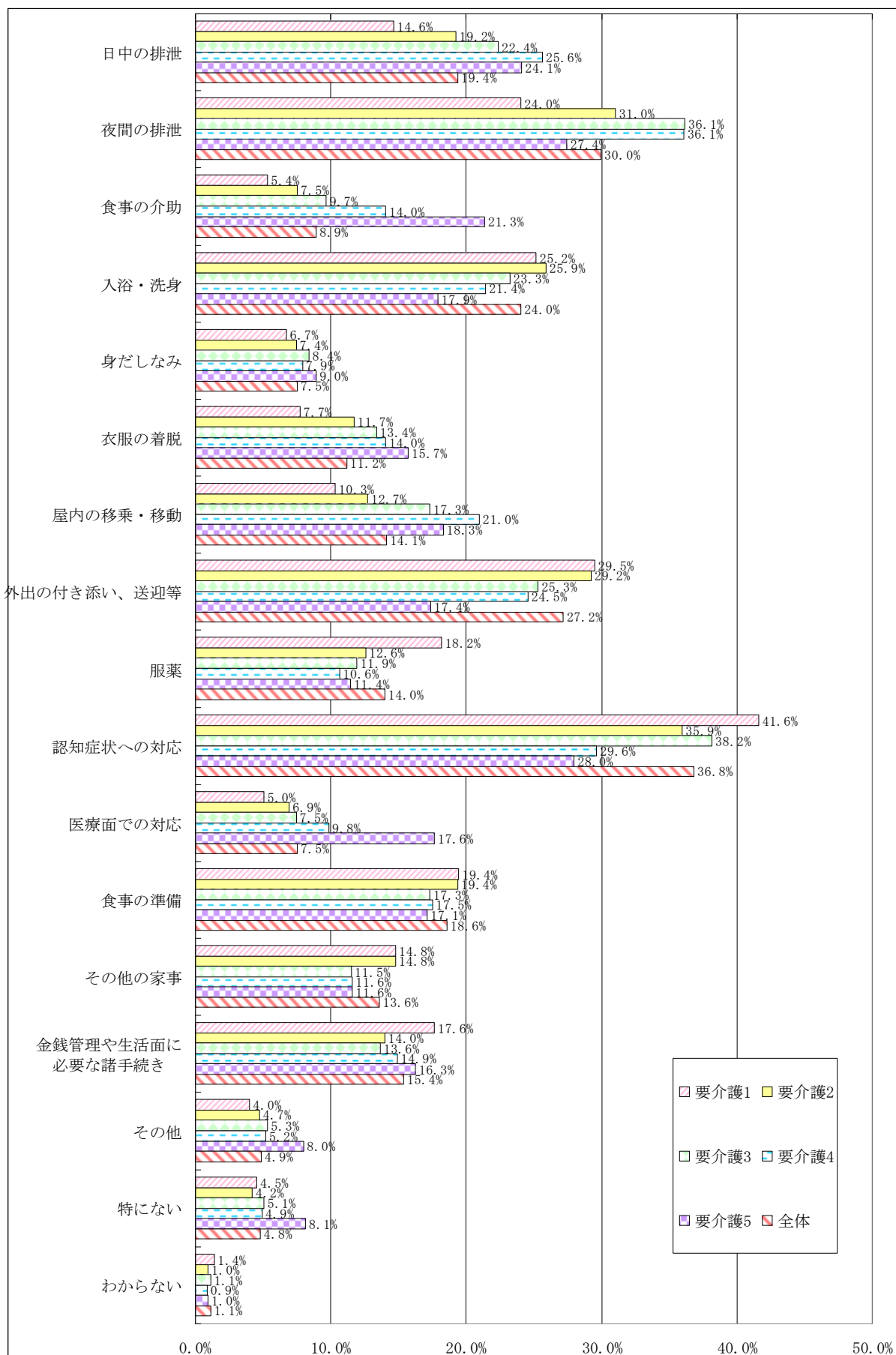
② 主な介護者の年齢について

主な介護者の年齢は、調査対象者（介護をされる方）が男性の場合は、70代が一番多く、約3割、女性の場合は60代が一番多く、約4割となっている。



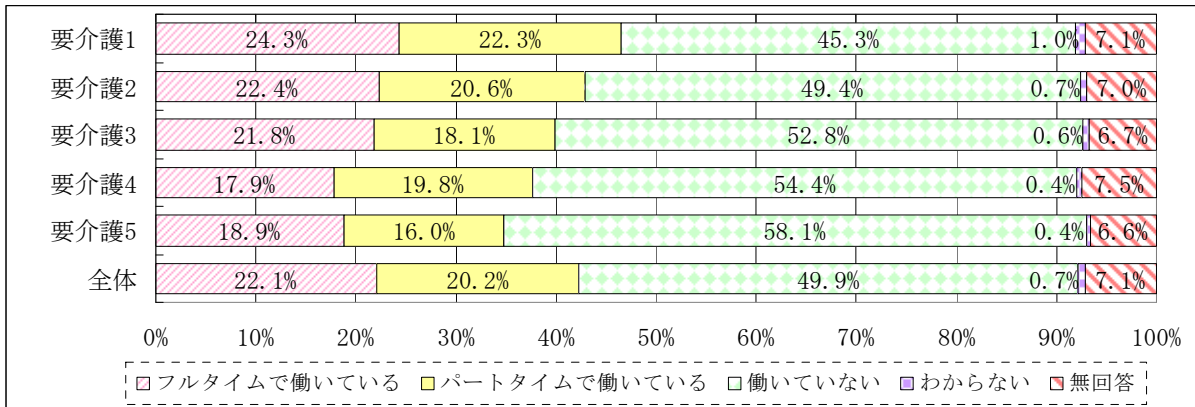
③ 主な介護者が不安に感じることについて（複数回答）

現在の生活を継続していく上で主な介護者が不安に感じていることは、認知症への対応が約4割と一番高く、次いで夜間の排泄となっている。



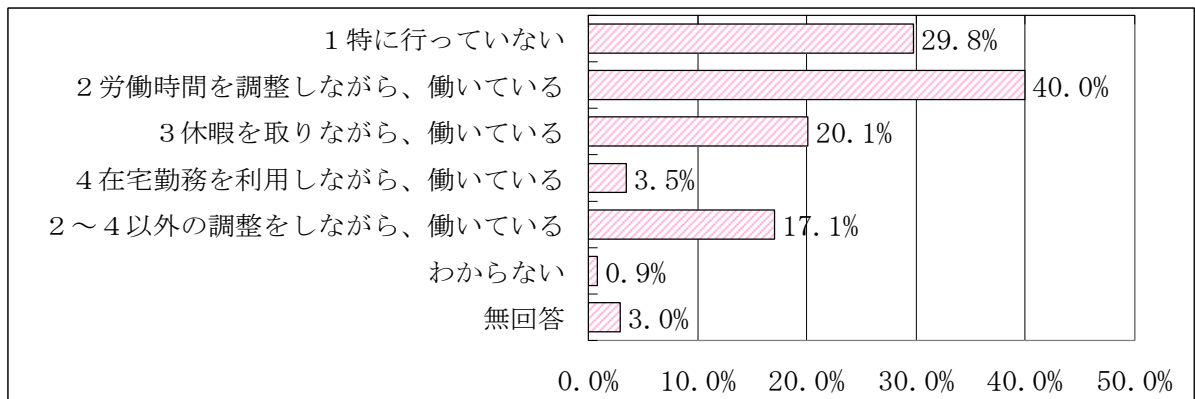
④ 主な介護者の現在の勤務形態について

主な介護者の勤務形態は、働いていない割合が一番高く約5割から6割程度となっている。一方、働いている（フルタイムで働いている、パートタイムで働いている）割合は、要介護1では約5割であるのに対し、要介護5で約3割と介護度が高くなるにつれて、減少傾向となっている。



⑤ 主な介護者の介護をするにあたっての働き方の調整について（複数回答）

介護のために働き方を調整していない割合は約3割となっている。



⑥ 主な介護者が働きながら介護を続けていけそうかについて

続けていくのは難しい（続けていくのは、やや難しい、続けていくのは、かなり難しい）と回答した割合はいずれの介護度でも約2割となっている。

